戦艦越後物語・ 改

陸奥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、 は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 の 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 PDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ そのため、作者また 引用の範

小説タイトル】

戦艦越後物語・ 改

[スコード]

【作者名】

陸奥

あらすじ】

某所の言葉を借りると、 ですので、 在し(恋愛、ギャグなど)、 機が発進し目標との接触を試みるが……果たしてそこに存在したも 近に航行中の軍艦はなく、 のとは?本作品には架空戦記小説には不要と思われる要素が多数存 輸送船から、 941年4月 それを割り切れるという方のみ御覧下さい。 巨大な軍艦を発見したという報告が大湊に入った。 炭火牛すき焼き丼・ブルゴーニュ風なもの 本州と北海道を隔てる津軽海峡を航行中の 直ちに大湊航空隊から確認のための偵察 あらゆるネタや設定がごちゃまぜ. 本作品は、 付

序章 『 の終焉』

導 いた。青年の名は『 20XX年、 .。青年の名は『駒場翔』、普通の高校生である。 こまばかける そんな北の地の道南地方、函館市のとあるバス停にその青年は 日本の主要四島の内もっとも北に位置する島、 北海

好みが古く、妙なところで頑固な性格をした青年だった。 本当は昭和に生まれてきたのではな いかと周りから言われるほど

る。 が大半であり、学校から出るまでの間も廊下などでそういったカッ にとっての彼女は親友であると同時に恐怖の対象でもあるためマン た話は一切なかった..... プルと思われる仲睦まじい男女の姿があったが、本人にはそういっ ブの真っ只中だ。 ガのような幼馴染みの関係になることは多分ないだろうと思ってい したり出かけたりもするために微妙に噂になったことはあるが、 そして今日は12月24日、そう世間一般で言うクリスマス 翔の友人は恋人がいるものは共に過ごす予定の者 いや、幼馴染みの女性が一人おり、よく話 翔

えない青年である。 極的に行動していると思っている始末だからまったくもって手に負 普段から浮いた話があまりなく堅物扱いされて いるが、 本人は

っていたのではあるが時を止めるような力もない翔が望んだところ 時間が止まるわけもなく、 その為、 自覚のない翔はこの日が来なけれ とうとう来てしまった ば しし しし のだった.....。 と常日頃から思

続け ŧ 低速で運転するせいで30分. そんな天候でも自転車が禁止になってい 朝から吹き荒む猛吹雪 なけ れば ならない。 例えそれが交通渋滞や安全のためにバスが 視界は10 最悪の場合は る冬期間、 mから15 1時間遅れになって 俺はバスを待ち mがせい ぜい

いために俺達の家はバスに乗るか、 らいざ知らず、今の市電は市内のごく限られた路線しか走っていな 函館には市電もあるだろう、 だって?路線がたくさんあっ 歩いて帰るしかないのである... た昔な

... そう、俺達だ。

が震えて立っている、おかげで俺はコートなしで学ランだけの状態 ら自分のコートの上に俺のコートを重ね着している鶴崎淑恵17歳フラーと耳当てとフードで顔の半分が見えないが、洟水垂らしなが で吹雪に耐えねばならない。 隣には幼馴染みであり、 代々武術家である家系に生まれ 今は マ

そこまで着込んでいるのにまだ震えるくらい寒いのかということだ。 んでおいてまだ寒いのか?あと洟水拭け」 お前な、そこまで厚着して.....あまつさえ、 やたらと長くなってしまったが、 要するに俺が言い 俺のコートまで着込 たい の

め シーというものを.....ふ、 わかったわかった。 翔、 常々思っていたんだけどもう少し女性に対してのデリカ ふぁ.....くしゅ!」 取りあえずティッシュやるから、 洟をか

と来たようだ。 隣で淑恵が渡されたティッ シュで洟をかんでいる内に、 バスがや

いろいろと文句をたれてい だって寒い んだもの。 る淑恵を無視して、 俺はバスに乗り込

こんばんは、駒場翔です。

を歩いております。 現在自分は、 先ほど家に帰ってきたばかりですが再び猛吹雪の

り行ってきてくれない?』 \neg そんな最悪の天候の ケーキの材料、 買い忘れてきたのがあっ 屯 何故また外にいるのかというと たからちょっとひとっ走

で愚かにも引き受けてしまった俺は、 う母の 一声のせいに他なりません。 十数分後には再び猛威を振る 吹雪も弱くなって LI

い始めた吹雪の中でひたすら後悔していた。

んだ.....そうだ、 (ああまったく、 今日は厄日に違いない!) 何でよりにもよって今日に限っ て俺は引き受けた

「っと、すみません.....あれ?」

を移し、顔を覆って走り始めた。 俺は疑問に思い首を傾げたが更に強くなってきた吹雪に慌てて意識 って後ろを振 深くかぶった女性にも気付かず肩がぶつかってしまった。 心中で愚痴をこぼしていた俺は、前から歩いてきたフード り返ったが不思議なことにどこにも女性の姿は見えず、 すぐに謝

で蜜柑を食おう) (こりゃ酷いな.....早く買って帰ろう。そしてあったか~いこたつ

と、家に帰ってからの暖かいこたつの中を思い浮かべ顔を緩めた

途切れた。 イトを感じた瞬間、 スリップした大型クレー 身体に強い 衝撃を感じたのを最後に俺 ン車の車体が見えたと同時に眩 の意識は ラ

数台が玉突き事故を起こすというを大事故へと発展。 としていなかっ されるまで翔が事故に巻き込まれたということを知るものは誰一人 ていた目撃者がいなかったことから、 と消防が現場に駆けつけたが翔が事故の現場にいたということを見 クレーン車は橋の上から川へと前半分がせり出し、 た。 翌日の両親からの捜索願 すぐさま警察 後続の乗用 が出 車

た彼女の口元は静かに笑っているようにも見える。 か見えないほどの吹雪の中、 事故が起こった直後の現場に彼女はいた。 しどこか気味が悪くなるような笑みを浮かべて... 強風にあおられ一瞬だけ垣間見え 視界が どこまでも普通 1 0 彼女の m 足ら

乃章『 の終焉』(後書き)

陸奥です。 皆さんはじめまして、 前にあったことのある方はお久しぶりです。

まず、 今回、やっと改訂版が出来上がりましたので掲載いたします。 その第一陣となる序章から既に前回とは大きく異なっております。

- 翔を轢いた車両 前回 トラック 今 回[、] 大型クレーン車
- 洟垂れ寒がり幼馴染み登場
- 謎の女性登場

.... 等です。

うかもしれませんが、 いきたいと思います。 これからもいろいろな矛盾や、ご都合主義的な展開になってしま 出来うる限りリアルな戦記っぽいものにして

あるためにジャンルを戦記とはせず、 ちなみにこの作品は、 戦記には不要と思われるような要素も多々 その他に設定いたしました。

第一章・『濃霧の中より来たる艦』

て考えてみることにしよう。 スで積もり重なって作られてきたのだと思う。 時に、 歴史というのはありとあらゆる可能性が微妙なバラン 太平洋戦争を例にし

そしてレイテ海戦における栗田艦隊の謎の反転.....。 真珠湾奇襲の成功、絶対優勢なミッドウェイでの連合艦隊の敗退、

戦いだ。 どれもがどこか少し違うだけで後の結果が変わっていたであろう

確実に後の展開は変わっていただろう。 と運命を共にしてしまった、又は潜水艦の雷撃を受けなかった等々 イで先に敵艦隊へ向け攻撃隊を発進させた、栗田中将が重巡『愛宕』 例えば、 南雲艦隊が奇襲直前に発見されてしまった、 ミッドウェ

らその後はどうなるか?誰でも一回は想像したことがあるだろう.. .. この物語は、 ならば、その数ある可能性の中に途中で余計な何かを加えて そんな余計なナニカが加わった物語....。

何でこんなことになってるんだ.....?」

のもまた多すぎました」 本は確かに得たものも多かったでしょう、 長官、 僭越ながら申し上げさせていただきます. しかし同時に、 .. この戦争で日 失ったも

戦わざれば亡国、 戦わずして国亡びた場合は魂まで失った真の亡国である!」 戦うもまた亡国につながるやもしれぬ

可能ならば... 第一航空艦隊への、だいいちこうくうかんたい 編入をお願いいたします」

共に消え去り結果は変わらないのか、 違う方向へと導いていく。 そんな余計な可能性になった一隻の艦の存在は、物語を少しずつだ消え去り結果は変わらないのか、結果が更に酷くなるのか.....。 史実とは異なった別の歴史になるか、 それともまた別の可能性と

姉さんにはわかりません、 わかるはずがないんです!」

貴様.....今、何と言った?」

俺は、絶対に諦めないぞ!」

変えられるかどうかの問題じゃない.....変えるんだ、 歴史をな」

本日付で戦艦『越後』 艦長として着任いたします!」

をあげ動き出す。 出会うはずのなかった運命、 交差する数々の想いを載せて艦は錨

俺は.....私は、一体何者なんだろう.....」

ない。 「あなたがたとえ何者であろうとも、あなたという存在に変わりは そうでしょう?」

「翔.....目を、覚ませ。覚ましてくれ.....」

晴れることのない歴史という濃霧の中を、 艦はただひたすら前へ

と進んでいく.....。

の日、 津軽海峡の天候は晴れ..... の筈だった。 筈だったのだが

:

「晴れませんねぇ、この霧」

りに周囲への警戒を怠らないよう、注意してくれ」 予報では快晴となっていたが.....当てにならない予報だな。 見張

突然発生した深い霧に呑み込まれたしまい、 港して2時間、最初の1時間半ほどは順調な航海が続くと思いきや くなってしまった。 青函連絡船 『飛鸞丸』は、濃霧の中を航行していた。 視界がまったくきかな 函館港を出

もおかしくはない、 航路が設定されているとはいえこの濃霧だ。 航路を外れた船が出て りながら慎重な航海を続けていた。 方位などから針路を割り出し、僅か数ノットの速度で周りに気を配 からないのだから。 『飛鸞丸』船長、吉川巌と副長、 何せ自分たちも正しく航行できているかなどわ なにせここは海峡のど真ん中、 田所宏平は航行した時間と速力、ただいころへい

うっすらと影が船の前方に浮かび上がった。 そうして盲目航海を続けていた『飛鸞丸』 ではあるが、 霧の中に

「おい、あれは.....

「船、でしょうか.....」

がここはまだ津軽海峡のど真ん中、 外れて陸地だった場合は進路を急ぎ変えなければ、 徐々に近づいてくる影に、二人は一瞬の間に考える。 陸地などあろうはずがな 座礁してしまう もし航

「面舵いっぱいだ、急げ!」

面舵いっぱいヨーソロ~!

える。 舵をきり左舷に若干傾斜しながら『飛鸞丸』 まさか しかし件の船と思われる影の位置がいつまでたっても変わら 向こうもこちらに舵をきっているのか、 は旋回して進路を変 それとも..

ą うことになる。 あちらがあまりに大きいために徐々にしか動いていないように見え ということか?だとするとまだかなりの距離が離れているとい

はないかね?」 田所君、 正面のあれはもしや、 海軍さんの軍艦

「おそらくそうではないでしょうか.....船長、 霧が」

晴れてきた、 な.....どれ、 だんだん見えてきたぞ」

その時、吉川船長は何か違和感を感じた。

はないか? ように見えてもいいはずだ。 な大きさであっても、双方が動いているのだからもう少し縮まった どれだけ近づいていっても距離が縮まったように見えな ということは.....動いて、 いないので

0 0 m 所副長が異変に気づいた。 い、ということはなんらかの極秘任務で停泊しているのか..... しているようなのだ。 しかも甲板に人の気配がまったく感じられな ば そして『飛鸞丸』が戦艦と思われる船に対して、 の距離で追い越す時、今度は双眼鏡でその艦を眺めてい 煙突から排煙が見えず、完全に火を落と 後方から た田 0

'船長、大湊に連絡しましょう」

どうした、何か変なことでもあったのか?」

......どこにも、 軍艦旗や国旗が掲揚されていません」

米英蘇豪中の戦艦が領海を侵犯しているのか。

艦が、 以上!船橋より機関室、 位253度、 飛鸞丸』 停泊または漂流中。 通信士、 宛、大湊要港部、 距離約20k 大湊要港部に打電。 両舷前進一杯!急げ!」 我に対処手段なし、 mの海域にて、 本文『津軽海峡を航行中、 電文は『発、 国籍不明の戦艦と思しき 早急な対応を求む』 日本国有鉄道 函館より方

"両舷前進一杯、ヨーソロ~!』

るように最大速力の17 が唸りをあげて回転数を増す。 ノツ トで遠ざかっていっ 7 飛鸞丸』 た。 はその場から逃げ

電文は、 昭和 『津軽海峡を正体不明の戦艦と思しき艦が漂流している』 1 6年4月1日。 大湊要港部に1通の緊急電が届い

請する。 たこの緊急電に、 函館から出航した国鉄所属の鉄道輸送船『飛鸞丸』から伝えられ 大湊要港部は大湊海軍航空隊へ哨戒機の発進を要

命じ、 態につき選りすぐられたベテランに出撃が命じられることとなった。 峡は昨夜から発生していた濃霧のため見通しが悪かったが、緊急事 これを受け大湊海軍航空隊司令、 大湊飛行場から九六式陸攻2機が発進した。 この日の津軽海 井上左馬二中佐は直ちに出撃を

の予定だ。 に対し発砲の恐れがある、 確認後、直ちに詳細を連絡することである。 目標は、 以上、解散」 正体不明の戦艦と思しき艦だ。 十分注意してくれ。 貴様たちの任務はこれ なお、 発進時刻は〇九三五 当該艦はこちら を

少しで終わる予定だった。 25番爆弾の取付、 連絡を受けた直後から、 弾薬の補充を行っており発進までの準備をあと 大湊飛行場では九六式陸攻に給油、

で停まっているなんて機関に故障でも起きたのかね?」 向かうに しる、 しかし、 ソビエトからアメリカに向かうにしろ、 国籍不明の戦艦とはな。 アメリカからソビエトに あんな海域

しかし今回はそういった話はとんと耳にしません」 くら国際海峡であるにしても、 さあ..... どのような理由にしてもあの海峡は我が国の領海です。 事前通達くらいは行うはずです。

な 要は実際に乗り込んでみなきゃ何もわからんってこっ た

|機長山岡慎之介中尉は、出撃する2機のうちの1 機 出撃前の飛行長からの訓示の後、 九六式陸攻二三型オミ・3 最終確

認を終えた機体に乗り込み副操縦士、 いている。 の時を待っ ていた。 他の5人の搭乗員も、 澤井孝昭上飛曹とともに出撃されいたかあき すでに各自の持ち場に着

ながら、ゆっくりと滑走路端に停止する。 やがてオミ・314号機は2基の『金星』 発動機の轟音を響かせ

一番二番出力最大、発進!」

轟ッ!と、爆音をさらに大きく、 力強くしながら『金星』 はオミ

314号機の機体を動かしはじめる。

浮かべた.....。 やがて加速したオミ・314号機は、 ゆっくりと大空にその身を

からん...各員、気を引き締めていけよ」 機長より達する、 まもなく目標上空に到達するが何が起こるかわ

途中まで雲上を飛行していた九六式陸攻も、高度を落としたため機 体の周囲はすでに霧に囲まれており、今は計器に頼って飛行するい わゆる"計器飛行"の状態だ。 真剣な顔で山岡中尉は搭乗員たちに伝声管を使って注意を促す。

方がないとも言える。 目標の周辺は晴れているとのことだが、この状況ではそれも怪し 最悪、目標との接触はできないかもしれないがこの状況では仕

での距離に迫った途端に、 に晴れたのだ。 だが、そんな不安も杞憂に終わったようだ。 今まで機体を包んでいた濃霧が嘘のよう 目標まで後 1 k m ま

機長!あれが目標では?」

おお、 そばで様子を見ているのだろう、 あれか.....確かに大きいな、 水雷艇がすでに到着して目標艦 水雷艇がまるで艀だ」

しかし、 近づくにつれその認識は間違いだということに気づい 7

の周囲に停泊しているようだ。

ちょっと待て.. あれは水雷艇なんかじゃない、 駆逐艦だぞ」

炎』型のいずれかだろうと推測できる。 管が2、 対象である目標艦が巨大であるということなのか.....。 雷艇なんかとは見間違えるはずがない。 それほど、 後には背負い式に連装砲が3基搭載され、煙突が2本あり魚雷発射 m近くにまでなる大型の駆逐艦で、 3 基。 傍らに停泊している艦はよくよく見てみると駆逐艦だ。 この兵装の配置から『吹雪』型、 間違っても8、 だが全長は 『朝潮』型、 そばにいる比較 90m近くの水 いずれも12 0

印象を受ける。 るなら英国の『 艦後部には、 人影はなく、排煙もなければ、 飛行甲板のようなV字状の平坦な甲板が見え、 フューリアス』の改装前の姿を前後逆にしたような 発砲もない。 例 え

文を打電させた。 に艦に近付け、 周囲を3周ほど旋回し、安全を確認した後に山岡機長は機をさ 発見してから実に15分後に大湊要港部に発見の電

(いっただっきま~ずぅッ!?」

目覚めた。 駒場翔はその大好物が口に入る瞬間、 目の前には沢山の寿司、 そして箸には大好物の中トロ 何か堅いものに頭をぶつけて の刺身。

そうな部屋.....今まで、こんな場所に入ったことはない。 椅子に座ったまま周囲を見てみるとそこは見知らぬ、なんだか高級 (なんだ夢か と思いつつ目を開け、 やれやれ、 寝転がったまま..... 寝ぼけて机の角にでもぶつけたか?) いや、ゆったりとした

(えっと..... 昨日はどこで寝たんだっ ! ?

きたクレー そうだ、 ン車に轢かれてそのまま意識を失ったんだった。 昨日はケーキの材料 の買い出しに行って..... 唐突に出て

送され そもそも椅子に座らせてそのまま放置するはずない。 ているんならベッドの上で呼吸器でもつけているだろうし、 しかしそうなると、 ここは一体どこなのだろうか?病院に

ここがいわゆるあの世ってやつか?それだったら随

分と予想外な....ッ!?)

頭痛に見舞われる。 なんて馬鹿なことを考えていたからなのだろうか、 唐突に激しい

流れ込んできた。 それと同時に明らかに自分の物ではない情報が、 脳裏に強制的に

(なんだこれ.....!?頭が、 割れそうだ....ッ)

ぐらいに感じられた。 係なく次々と書き込まれていく殺人的な量の知識。 できた時間は実質1、2秒くらいにもかかわらず俺には1、 コンピュータにプログラムが入力されるが如く、 実際の流れ込ん 俺の意志には 2 時間

自分の身体に起きていたことに気付く。 べくまだ頭痛が残る頭を抑えながら立ち上がると、 やがて頭痛が次第に治まり、少しは落ち着いたので状況を調べ さらなる異変が

「うん?なんだこれ.....ゑぇ?」 何故か旧海軍の軍服を着ているのだ。そして胸の辺りが妙に重い。

ると、明らかに誰かの髪の毛だった。 そして自分の視界に何か黒いものが目に入ったので手に取って 3

しかしたら蜂に刺されて腫れているのかもしれない。 いや良くはないがまだ許容範囲内だろう。胸の重さに関しては、 さらに声が変に高い、まるで女のような.....。 そこまでは良い、 も

問題は、これが誰の髪の毛で誰の声であるか、だ。

がらその手触りの良い髪の毛を思い切り引っ張ることにした。 のだったらどうするんだ、なんて後先のことは全く考えていない。 俺は心から他人の髪の毛でその人の声でありますようにと願 誰か 们な

は思いきり引っ張ったことを後悔する。 そして俺はえいやとばかりに引っ張ったのだが、 この後すぐに俺

· ツだあ!?」

ら出ていたのだった..... みだったことも災いしたようだ。 正直言おう、半泣きになるほど痛かった.. なんでさ!? そして声は紛れもなく自分の喉か 運悪くそこがこめか

よし落ち着こう、 深呼吸三回、 OK落ち着いた。

まず、状況を整理しよう.....。

た。 上がると何故か帝国海軍の軍服を着ていると。これはこれで問題だ、 なにしろ轢かれたのと、 昨晚、 次、 その直後に変な頭痛に襲われ、なんとか治まったので立ち 俺はクレーン車に轢かれて目を覚ますとこの部屋 この部屋にいる関連性が全く浮かんでこな の中に

時期尚、早とち.....確認のために少しだけ前を開いてみたけど、 偽物であって欲しかった。 らかに女性特有の胸の谷間で、皮が身体と繋がってたよ……せめて ら風邪をひいて.....そうだ、 何で、何で女の身体になってるのさ.....いや待て待て、 しかし、 いまはそれさえも些細な問題に思える。それ 胸!まだ女性の身体と決めつけるのは もしかした は何故か 明 ?

ような気がするけど気にしないこととしよう。 もう一方のほうは怖くてまだ見ていない、なんか変に感触がな 61

るわけでもなし.....まずは情報収集だな」 何でこんなことになってるんだ?まぁ今愚痴を言っても、 元に戻

ことにする。 若干現実逃避をしつつ自分を宥め、 とりあえずこの部屋から出る

が、 しかし、 やはり通路.....。 出たところは通路。 気を取り直してその先の扉をあけ る

から出られるかな?」 「まさか、延々と続いてるわけじゃないよな.....そうだ、 の階段

そう思って横にあった階段を上がった、 のだが出口の扉が予想以

多数設置された傾斜した場所だった。 やっとの思いで扉を開けると、 代わりに旧軍の高角砲や機関砲みたいなものが大量に設置さ そこは周囲に機関銃らしきも 足場をさらに進むと傾斜は終

れている物々 いところに出た.....実物か、 あれ ?

「なんか、昔の軍艦みたいだな.....」

装の砲塔が後ろに1基で、さながら『大和』 は確かこんなに大砲は積んでなかったはずだ。 りほど大きく見えるどでかい大砲が2基と、 そこには尾道で見た戦艦『大和』の三連装砲塔よりも一回り、二回 その何気ない言葉である可能性に至った俺は急いで振 小ぶりだがやはり三連 のようだが.....『大和』 り向く、 لح

が一定の周期で揺れると言うことは.....、 周りの風景を見回すが、どこを見ても海、 海 海.....そして足場

「......何で船に乗ってるんだ?」

は水平線の上に少し見えているくらいだった。 この足場の周りを取り囲んでいるのは紛れもなく海であり、 陸地

積んでるなんて.....うわッ!?」 を見上げる。どうせ夢なら心行くまで味わってから目を覚まそう。 「はああ もしかして自分は、夢でも見ているのかと思いながら改めて大砲でっかいなぁ。でも、空母なのにこんな大きい主砲を

甲板を歩いていると誰かにぶつかってしまった。 呟きつつ、でっかい大砲を近くで見るために砲身を見上げながら

「す、すいません。少しボウッとしてて.....」

いえ、 こちらこそ申し訳ありません.....。 すみませんが、 あなた

はこの艦の乗員なのですか?」

いえ、 そんな疑問を抱きつつ、 変だな、 違いますが..... 普通自分が乗っている艦の名前ぐらい覚えてるだろうに。 あなたはわからな 俺は目の前の青年に問い返した。 61 んですか?

撃沈され迫ってきた水に呑み込まれたところまでは覚えているも いえ、それが.....自分は別の艦に所属していたのですが戦闘中に 自分が何故この艦に乗っているのか.....覚えてない んです」

それは.... 大変でしたね、 ええっと.....」

どうコメントすれば良いんだよ、これ。

な時にどういえばい いかわかるほど、 俺はまだ人生経験を積

んでいないんだ。

海大尉、 あぁ、 洞爺誠と言います」 申し遅れました。 自分は駆逐艦『初風』 航海科所属海軍航

「 ご丁寧に有難うございます、私は.....」

そこで俺は二つめの身体の異変に気付く。

だけど.....! な、名前が出てこない。 本名言おうとすると口が動かなくなるん

『 名:天霧 戦艦『信濃』艦長 (前:戦艦『 楓(名:戦艦『越後の艦魂、 ᆸ 越後) の艦魂、 前職:海軍大

分穴あきだし、まさかこれを言えってか.....仕方ない、 なんだこれ、唐突に頭に浮かんできたんですけど。 しかも後半部 な。

..... 戦艦『信濃』艦長、海軍大佐天霧楓です」

魂、というか人間兼艦魂なんて無茶苦茶すぎるだろ。これって言う チガイに見られるのは避けたい。 なれば人間兼幽霊ですって言っているようなもんだ。 例え夢でもキ たら確実にキチガイに見られてしまいそうだし、そもそも艦長兼艦 とりあえず艦魂云々のところは言わないでおくこととする。 言っ

す ね。 あぁ、 てっきり自分は..... あ、 やはり上官でしたか。 いえ何でもありません」 しかし女性の身で大佐とは珍しい で

気になるんだが。珍しいですませていいのか?あと何言おうとしたのか非常に

なっているらしいと気がついてきた。 らぶら歩いていた俺たちだったが、徐々に今が極めて大変な事態に 今後のことやこの艦のことも含めた話をしつつ甲板をぶ

どういった事態なのかを把握しようとしているからだ、 ている場合ではなかったらしい。 さっきから水兵や下士官、 さらには士官までもが走り回って今が 暢気に話し

子でやって来た。 そして、俺達の元にも走り回っ ていた士官の内の一 人が焦っ

- 失礼します、あなたはこの艦の責任者ですか!?」
- 「えっと、いや違いますけど.....」
- 「 そうですか..... あなた方も我々と同じですか」

落胆したように肩を落とす中年士官、 一体どういう事なのだろう

か? 「すいませんが、 同じとは?

遅れました、自分は戦艦『土佐』副長、海軍中佐早川秀次です」 我々もこの艦の本来の乗り組みではない、ということです。

「私は戦艦『信濃』艦長、海軍大佐天霧楓です」

うことを教えてくれた。 「自分は駆逐艦『初風』航海科所属、海軍航海大尉、洞爺誠です!」 双方が名乗った後、早川中佐が今まで艦の指揮を執っていたとい

板を発令しました。今の設備も配置も艦の構造、何もかもがわかっ てない状況では人員の把握でさえ困難と思われましたので.....」 「天霧大佐、先ほど私が本艦に乗艦している者に対して総員最上

思ってよりも大変なことになってたんですね.....」

隣で洞爺大尉が俺の心境と全く同じことを言ってくれた。 しかし次に早川中佐が言ってきた発言は俺の予想を超えてい た ഗ

だ。

「それで天霧大佐、 ふむ、 俺が艦の指揮ね。 これからはあなたに指揮を執っていただきた 了解りょうか..... はい?な、 なんですと

私がですか!?

<u>;</u>

が最上位の士官になります。 たが大佐、 はい、今までは私が最上位の階級でしたので指揮を執ってい 何で俺なんだよ!?夢だとしても、もっと現実感を出せ! 軍隊は階級組織だからなぁ..... しかも艦長経験のある方がいらっしゃるのならばあなた 是非、指揮を執っていただきたい」 しかし俺従軍経験がない

り返るが期待を込めた視線で返されてしまった。 ですけど!?と思い、 とっさに隣の洞爺大尉に助けを求めようと振

行きたい。 思われて、当たり前のように経験が豊富な士官だと思われ そうか...... 周りの人達と同じように他艦に乗り組んで 安易に頭に湧き出る情報通りに喋ったちょっと前の俺を殴りに ١J ているの た のだと

る指示を出すことにする。 ひとまず頭に無理矢理詰め込まれたような知識の中から妥当と思え 断れる雰囲気じゃないよなぁ、 と完全に周りの空気に飲まれ

るよう通達してください」 には情報が必要ですので、 つき右舷最上甲板などに関係なく、です。 今の状況を整理するため 員等の掌握ができ次第、兵や下士官島は前部甲板に集合。わかりました。これより私が臨時に艦の指揮を執ります。 士官や准士官を艦首の錨鎖甲板に集合す 非常時に

「艦首錨鎖甲板ですか?」

こだか場所がわからないでしょうし」 はい、皆さん正規の乗員ではないとのことですからまだどこがど

ちなみに俺もわからない。

錨鎖甲板集合を伝えます」 了解しました、 総員前部最上甲板集合及び、 士官、 准士官の艦首

ち上げたものとしては結構良いできなのではないだろうか。 ふう、 ひとまずおかしなところはなかったらしい。 その場ででっ

- 「『武蔵』砲術科第七分隊第四機銃班集合!」
- 「『陸奥』砲術科第三分隊集合せよ!」
- 「『加賀』主計科集まれえー!」
- 「『霧島』砲術科第二分隊、集合整列!」
- 「『瑞鶴』第二高角砲班、総員集合!」
- 「『蒼龍』第五高角砲班整れぇーつ!」
- 『筑摩』機関科集まれ!」

へし合いしているのだ。 優に三千人を超える人間がそれぞれの班へ整列するべく押し合い 全部最上甲板は今、 市場の喧噪の如く騒がしか った。

だ。 み合っているのを。 想像してみてもらいたい。 広さは全然違うがイメージとしてはそんな感じ 東京ドームー面が満員電車のように混

そこへ....、

開始する!幹部士官は直ちに艦橋下右舷最上甲板へ集合されたし!」 ことを達する、間もなく艦橋下右舷最上甲板において緊急の会合を し緊急連絡!間もなく艦橋下右舷最上甲板に緊急の会合を開始する 「艦内各部の士官に対し緊急連絡、 この連絡が飛び交ったため、さらに甲板は混沌を極めることとな 繰り返す、 艦内各部の幹部に対

ない状況となっていた。 そこかしこで士官と下士官、 水兵がぶつかり合いなかなか前 へ進

を思い返していた。 (さっき頭の中に流れ込んできた情報の中に『越後』の艦魂ってあ たけど、やっぱりあの" 一足先に洞爺大尉と艦首錨鎖甲板へ到着した俺はこれまでのこと にしても、風がきつくてちょっと寒いなぁ..... 艦魂"なのかねえ.....)

ン、それこそが艦魂......ちなみに俺には萌えというのがどういった ことかは未だにわからないんけど。 俺が読んでいたネット架空戦記にたまに出てきた萌え系のヒロイ 先ほどの"艦魂"という単語の意味は一つしか思いつかな

の姿をしていると言い伝えられているらしい。 そう考えていて一つの仮説が浮かび上がった。 まあそれはさておき、すなわち『越後』は自分であり自分は であるということだ。 艦が沈むときは、 自分も死ぬ。 艦の魂は皆、 女性

だから自分 が艦に憑依だよな、 したときに男ではなく女の姿

が見つ になっ 理由があるんだ。 からないからそう考えたい、そうじゃなかったら他にどんな た のではないだろうか。 それこそショッカーによる魔改造か。 というか、 そう考えないと他に理由

(しっ 練の前に艦内の構造把握が先かなぁ.....) しかしなくてもこの艦の乗員って寄せ集めか?こりゃまずは戦闘訓 かしさっきから『武蔵』だの『加賀』だの『陸奥』 だの、 も

と、考え込んでいる内にいつ 総員集合しました!」 の間にか幹部が集合していたらし

と、早川中佐が知らせてくれた。

か、早川中佐からお願いします」 海軍大佐天霧楓とい して乗り組んでいました。 ご苦労様です早川中佐。皆さんも良く集まってくれま います。 それではまずは自己紹介といきましょう 以前は...『信濃』 という戦艦に艦長と

ら乗っていたとしか言いようがなく 副長を務めておりました。 さて、この後の各人は一体どういった艦からきているのか..... わかりました. 自分は元戦艦『土佐』 海軍中佐であります、本艦には気づいた 乗り組みの早川秀次 大

次は私が。 名は菜野輝夜、 大尉です。 元々は重巡。

年齢は秘密でよろしいですね?」

乗り組でした。

きな不安と若干の好奇心を抱えながら、

俺は黙って聞いていた。

しまうような自己紹介の人もいたな.....。 菜野大尉を最後に自己紹介は終わった。 中には色々とは勘ぐって

第日本帝国海軍第一航空艦隊通信参謀、 海軍少佐草加拓海です」

みかねな これは驚いた。 何せ下手すると『越後』 に原子爆弾積

乗ってい まぁ、 たということだ。 わかったことは士官は全員がほとんど、 それぞれ別

なっています」 各種書類から『越後』 んでした。現在機関、 んでいたという乗員ばかりで、正規の『越後』乗員は確認できませ はっ、 成る程。 まず本艦の内部の状況を報告させていただきます。 それでは次に、 と判明、 電気系統は停止中。 艦内乗員はそれぞれが他艦に乗り込 本艦の現在置かれている状況は?」 全ての武装が使用不能に 艦名は

草加少佐がそう報告してくれた。 の方に睨まれてんだろ? そういえば、 なんでさっきか

漂流している模様です」 舷前方三〇〇に吹雪型駆逐艦を発見、信号を送りましたが未だ返答 はありません。 は不明なるも、 の周辺の報告をします。現在本艦は漂流しており、 日が暮れ次第天測にて割り出す予定です。また、 なお、駆逐艦も機関は稼働しておらず本艦と同様に 現在の海域 右

明! 報告します。 現在九六式陸攻2機が上空で旋回中です。 所属は 不

名です。 と思われる者、また民間人なども乗艦していました!」 人数集計が完了しました。 大多数は帝国海軍軍人でしたが、 本艦の現在の乗り組み 一部には女性や他国の軍 人数、 3

ろ鋭くなってるし..... 結構人数が多いなって、 まだ睨んできてるよあの人。 というか寧

るんですか?なんか、 貴官は、 渡井中尉でしたね 変なことでもやらかしたでしょうか?何をさっきからそんなに睨ん

言い放ったのだった。 そう尋ねたのだが、 渡井中尉はいっそう睨みを利かせながらこう

それ以前に、何故女が軍艦に乗っている!」

あぁ、 乗員の そうか。 /3くらいは女性だ。 確かにそうだが、 そこまで考え周りを見回す。

多く なに乗ってい か変じゃ ないか.... るんだよ、 ・そうだ、 海上自衛隊よりもも なんで昭和期の軍艦に女性がこ か なくても比率

何処が変なんだ?当たり前のことじゃないか」

喜勝少佐だ。 少佐さん.....えっと名前は確か.....。 そう、 横川さん。 横川

戦艦『天城』航海科所属、確かこうだった。

疑問に思わないんですか?」 当たり前 !?何処がです、 少佐!何故女が軍人になっているの か

存在しないはずだ。 の『天城』だのって俺の知る日本にはどっちとも建造中止になって ま、当然の反応ではあるが.....。 待てよ、 さっきから『土佐』 だ

「おかしなことを言うやつだなあ。 ているじゃないか」 昔ならともかく、 今は普通に

え込んでいる内に論議が白熱してきていたらしい。 が俺の知っている歴史の方.....みたいな感じか?あ、 もしかして、早川中佐や横川少佐は別の歴史の人間で、 なんか俺が考 あの中尉

と思われたまさにその時、全員に衝撃の報告が入る。 もう少しで女性肯定派と否定派で取っ組み合いの喧嘩が始まるか

悪攻撃されるかもしれない。 のは確実だが、何時なのかもわからない状況での接近となると、 報告、 次から次へと.....ここがどこだか、 右舷三〇〇、艦影3、接近!速力約20ノット! まずは相手がどれほどの戦力を持って いや陸攻がいる時点で日本な

「艦種、知らせ!」

いるか確認しないと。

その報告こ、一司こホッとした空気が充はっ.....軽巡1、水雷艇2です!」

その報告に、一同にホッとした空気が流れる。

ひとまず撃沈のおそれはない.....

かな?ないだろ多分。

成る程、

武装解除も何もない気がするが、 軽巡より、 発光信号! 貴艦の所属ヲ通告シ武装解除セヨ〕とのことです!」 〔我、大日本帝国海軍第五艦隊所属軽巡洋 一応通達しておくか。

IJ 」です!」 前方の艦よ り返信、 〔 我、 戦艦『越後』 現在全武装使用不能力

軽巡『多摩』 艦長、 新美和貴大佐はその回答に首を捻る。

使用不能だというのか」 全武装が使用不能?あれだけの武装を搭載しておきながら全てが

り、とても戦闘ができるような状態ではない。 甲板に多数の乗員の姿が見受けられます。 見たところ甲板には押し合いへしあい状態で乗員たちが並んでお 航海長が前方の艦を双眼鏡で監察しながら推論を述べてきた。 いないか、動かすために必要な動力がないのではないか、と.....」 おそらく、 動かす兵員

しよう、信号!〔我ガ領海ニ立チ入リシ目的八何カ〕!」 確かに、それならば納得もいくが..... 今は任務を先に済ませると

がそれはさらに新美大佐らを困惑させるものだった。 『多摩』から信号が発せられて数分後、『越後』から返信が届 <

返答は非常に理解しがたいものだ。 り、彼らは自分たちの手でこの津軽海峡へ来たのだろうから、 サレド、乗員ハホボ全テガ日本海軍軍人ト認ム。 我、 現状認識が出来ていないというのはまことに不可解そのものであ 〔現在、本艦ノ乗員二現状ノ認識ガ出来テイル物八皆無。 友軍ナリ〕!」 この

貴艦ヲ臨検ス〕 か..... まあい 現状の認識が出来ていない、だと?やつら、 ίĺ 本艦は本艦の任務を続行する、 頭でも狂ってい 信号!〔コレヨリ る ഗ

は恐らく我が帝国海軍の船なのだろうが く、後部の甲板はやけに広い (それにしても.....なんだあの艦は。 〔コレヨリ貴艦ヲ臨検ス〕、 ようだ。 送ります! 艦首に菊の御紋があるからに 明らかに『長門』 よりも大き

総員、 ここでいっ 警戒を厳にせよ たん新身大佐は思考を打ち切り、 乗員にこう達した。

球磨型軽巡より発光信号、 [コレヨリ貴艦ヲ臨検ス]

「どうします、大佐」

ます」 それと早川中佐、甲板の兵にラッタルを降ろすよう指示をお願いし れましょう。......伝令、すみませんが〔了解〕と返電してください。 「仕方ありません、まずは事態の把握が第一ですし臨検隊を受け入

た。 みんなに頼んでばかりだな、俺。 なんか申し訳なくなってき

だろう。 てくる。 そんなことをやっている内に軽巡から派遣された内火艇が近づい これでやっとここが何処で、何時なのか知ることが出来る

えを打ち払った。 来るんじゃないか?そう俺は思ったがすぐに首を振ってその甘い考 もし、だ。もし史実の日本で開戦前だったら、 戦争回避も出

そういえば、ここにいる人達ってみんな俺の姿が見えてるのか?.. はいないであろう女性軍人で艦魂なんだぞ……これは関係ないか? .. 見えてるんだろうな、さっきから普通に話してるし。 一体何を考えてるんだ。 一介の大佐で、しかもこの時代の日本に

..... 夢なら今すぐ覚めてくれぇ~!

Н 0 w o r ď (後書き)

ご指摘などをいただければ幸いです。 本当にありがとうございました。これからもよろしければご意見や が、この始まりまでは本当に多数の方々に助けていただきました。 さあいよいよ本格的に始まりました、 戦艦越後物語・ 改 です

せんが、 に変わります。キャラクタの性格などで大きな変更点などはありま 今回は改訂前とはあまり変わっておりませんが、次回からは大幅 海軍や陸軍の行動は結構変えられたと思っております。

詳しくは次回投稿の二節をご覧下さい。

礼申し上げます。 では、改めましてご支援、ご援助していただいた幾多の方々にお

次回の戦艦越後物語・ 改 もお楽しみに!

部全員が舷梯付近に集合し臨検隊を待っていた。 幾つもの舷梯を上がってくる足音が聞こえる。 9 は今、 幹

「総員、敬礼!」

手もすばやく答礼した。 ほぼ同時に楓は号令をかけ、 臨検隊の指揮官と思われる青年士官が舷側の影から姿を表すのと 一斉に出迎えた士官達が敬礼する。 相

(......やはり訓練された兵隊さんは動きが違うな、 今は目先のことに集中しないと) っといけない 61

る そんなことを楓が考えている内に、 臨検隊指揮官が名乗りをあ げ

ちらにおられますか?」 っておりませんし、外人や女の姿が多数見受けられて……艦長はど 属でしょうか?見たところ我が方の艦艇のようですが軍艦旗もあが 軍中尉、 「大日本帝国海軍巡洋艦『多摩』より、貴艦の臨検に派遣され 宇野智也であります。さっそくですが貴艦は何処の海軍所 た海

宇野中尉に楓は少しムッとした。見かけだけとはいえ、 されるというのは気持ちのいいことではない。 大佐の階級章をつけている楓を無視して、 隣の早川中佐に尋ねる やはり無視

暫定的な艦長は、隣におられる天霧楓大佐だ」

引きつっているように見えるのは気のせいだろうか? その返答にまた楓とは反対の方向を見る宇野中尉だっ たが、 顔が

゙......冗談ですよね、中佐?」

の顔からは否定してくれという願いがひしひしと感じられる。 反対だと早川中佐に指摘されやっと楓の方を向く中尉、

- L

こんな時に冗談を言うとでも?」

開すべく、 黙り込む双方。 楓は口を開く。 空気がだんだんと重たくなってい 誰でもこの沈黙は嫌だろう。 く中で状況を打

大佐天霧楓です。 「えぇ、と.....とりあえず挨拶を。 よろしく」 戦艦『越後』臨時指揮官、 海軍

た海軍中尉宇野智也であります。乗艦許可を求めます」 失礼いたしました、 巡洋艦『多摩』より臨検の ため参り まし

性が多数乗艦しているかですが.....元々我々は別々の艦に乗ってい りません」 て気付いたらここにいた、という者達ばかりですので、 集めで正規の乗組員は一人もいませんでした。 言ってしまえばどこの所属でもありません。 乗員も他艦からの寄せ 「乗艦を許可します。 それで先ほどの貴官の質問ですが本艦 それと何故外人や女 詳しくは知

ている範囲で答える。 (俺は違うけどな、 楓は自身の境遇に疑問を抱きながらも、 何でこの身体になってしまったんだろう.....) 中尉の質問に現在分かっ

にた。 しばらく考え込むように黙っていた中尉だったが、やがて口を開 しかし.....

性乗員の退艦を求めます」 性の乗艦は原則として禁じられております。 納得は いきませんがわかりました、 しかしながら我が軍は ですから、 速やかな女 女

年齢からして相手の方が上だ。 持ちはなんとか抑えて答えを返す。 度に軽く楓は目の前の男に殴りかかりたい衝動に駆られるがその気 女性 の姿をしているからか、 完全に自分を見下してい そもそも外見年齢はともか る中尉 の

の 申し訳ありませんが中尉、 一言が何故か意外だったようだ、 それはちと出来かねますね 中尉は酷く驚いた顔をし

「何故です?」

4 0 まず一つめ、 人いる内の1 どこに降ろすんです。 4に達します。 本艦の女性が占める割合は 中尉 の軽巡『多摩』 に載せ

がある。 らず退艦させられる権限を貴官が持っているのかどうか疑わしい。 もいることからそれらから反発が起こりこの問題がこじれる可能性 ないでしょう。 ますか?それではまた同じ事の繰り返しですしあの艦には載せきれ そして最後、貴官よりも上級の将校が多数いるにもかかわ 二つめ、共に同じ艦に乗っていたという男性乗組員

以上の三つの理由です」

「し、しかしですね!」

(おいおい.....まだ食い下がる気か?)

言い返せない中尉に若干呆れながらも、 ないやり取りに応対した。 とする.....むしろ自分の、 自身の主張が明らかに矛盾しているにもかかわらず食い下がろう 子供でも言えるような反論に対して何も 楓は中尉とのもはや意味の

「……何、軍令部からの連絡だと?」

存外に早い軍令部の対応に、新美大佐は少々戸惑い気味に問い 返

した。

い対応は少々予想していなかったのだ。 近々指示が来るだろうとは思ってはいたものの流石にここまで早

の通達です」 「はい、不審艦二隻を陸奥湾へ移動させそちらで詳しく調べる、 لح

 3
 宇野中尉達へ通達。 と特型駆逐艦の調査に向かっている『鷺』と『鳩』 座二攻撃スルモノト心得ラレタシ〕、と警告しておけ。 水雷艇ガ同行ス、 向カウベシ〕、とな に通達しる、 いつになく対応が早いな、 (特型駆逐艦ヲ護衛、 (貴艦八陸奥湾へ移動スベシ、同湾マデハ本艦、 航行中二僅カデモ不審ナ行動ガ見ラレシ場合、 〔臨検隊八即刻帰還セヨ〕、だ。 曳航シツツ本艦ト共ニコレヨリ陸奥湾ニ 今回は。 よしわかった、 にも連絡を入れ 同時に目標艦 ああ、それ 派遣中の 及 ビ 即

もっとも、 奴が撃ってきたら我々は成す術なく撃破されるだろう

熱していっているがそれに冷水をかけるように、 ったことが伝えられる。 まだ中尉と言い争っている楓たち、 だんだんと議論が一方的に加 伝令から通信が入

モ不審ナ行動ガ見ラレシ場合、即座ニ攻撃スルモノト心得ラレタシ) 動スベシ、同湾マデハ本艦、及ビ水雷艇ガ同行ス、航行中二僅カデ です。また本艦宛にも信号が.....宛、 「軽巡『多摩』より、信号!宛、 です」 臨検隊〔臨検隊八即刻帰還セヨ〕 『越後』〔貴艦八陸奥湾へ移

(なるほど.....ふぅ、これでこの少尉とはおさらばだな) 内心で楓は安堵の溜息をつく。例え中身高校生であったとしても、

この中尉との言い争いは本当に疲れるものであるらしい。

りませんよ」 命令なので仕方がありませんが、このあとにどうなっても知

本人は気付いていないようだ。 お前はそれが出来るほどの権力を持ってんのかよ 中尉の捨て台詞についつい本音というか、 翔の地が出てしまうが、

「.....くッ!」

つもりなのだろうか. 顔を悔しげに歪めながら荒々しく舷梯を降りていく中尉、 何様の

りの乗員達が驚いた様子で自分の方を向いている。 そして、中尉が見えなくなったあと、楓がふと周りを見回すと周

(あれ、何かまずいこと言った.....?)

りを見てしまう。 自分が注目されている原因がわからずに、 楓はキョロキョロと周

「……大佐、今の大佐が仰ったのですか?」

早川中佐、 あなたは何を当たり前のことを尋ねるんだ)

「そうですが、何か失言でもありましたか?」

先ほどから丁寧な言葉しか喋っていなかったので元から丁

寧に話す方なのかと思っていまして.....」

今まで意識して敬語を話していたために、気を少し抜いた瞬間につ いうっかりと口調を直すことを忘れてしまったのだ。 そう早川中佐に指摘され、 初めてさっきの自分の発言に気づく楓。

「はぁ ようにしていたのですが」 いえ、さっきのが地です。 皆さんの前では敬語で喋る

佐より下の階級ですからね」 「そういうことですか、なら地のままで良いですよ。 我々全員、 大

までいかせてもらいます」 「あー.....、それはまだ少し抵抗がありますし、 しばらくはこのま

. 別に我々は構わないんですがねえ」

楓は素早く思考を切り替えることにする。 いつかは地で話せるような関係になりたいとは思ってはいるも とりあえず今はこの問題が長引くことを好ましく思わなかった の

た。 ない。 陸奥湾へ行くとしてもまずは機関が動かなければ艦は 当たり前の結論に至った楓は機関科の士官を呼び出す事にし でに動 け

「機関科関係での最上級の士官は?」

「あぁ、はい。私です!」

な雰囲気の女性だ、 い出して彼女の名前を呼ぶ。 手を挙げながら一人の士官が前に出てくる。 楓はその女性が先ほど言っていた自己紹介を思 まだ若く見える活発

「 確 か、 動かすため機関室での総指揮を執ってもらいます。 貴官は草薙.....三佐でしたね。 あなたにはこれから機関 よろしいですね を

せんよ?」 了解です、 大佐 あぁそれと、 言いにくい のなら少佐で構い ま

わかりました、 下士官、 水兵の中で機関科関係 では少佐と呼ばせていただくことにしまし の兵はここへ

『はいつ!』

をしてもらいます。 あなた方にはこれから本艦の機関を稼働させるため機関部の調査 少し大きめの声で呼ぶと400名余りの兵士が前 あなた方の総指揮はこの. へ出てきた。

そう言って楓は草薙少佐を前に出し

「草薙少佐が執ります。 何か質問は?」

『ありません!』

大きく威勢のいい声で兵達は返事を返す。

「よろしい。では.....かかれ!」

「機関科、行くよ!」

『はい!』

機関は草薙少佐達に任せて、楓は次の指示を出すことにする。 号令を出すと遥香が元気よく兵を引き連れ艦内に入っていっ

、次、航海科関係の兵、前へ集合!」

『はつ!』

準備をお願 ちに航海科関係の人員を纏め、 横川少佐、 いします」 確か貴官が艦内で航海科の最先任でしたね?貴官は直 機関始動後速やかに出航できるよう

了解です!よし、航海科の諸君は俺についてきてくれ そう思った楓は残りの兵にも指示を出す事にする。 横川少佐も大きくよく通る声で兵を率いて艦内へと入ってい 残った兵達にも指示出さないといけないよなぁ)

場所を探してください 残った各科の最上級の士官は関連の兵を纏め、 か調べてきます」 ・私は各所を回って艦の資料や機密書類がな 艦内の各科の配置

残りの人員に適当な指示を出して、 楓は艦内へと入ってい つ た。

いた。 どうにも艦本式ター ビン機関とは別物のようでなかなか動かせずに ゼル機関だったのだ。 機関室では草薙少佐以下の機関科兵が機関の始動を試みて 実は『越後』 の機関はこの時代ではまだ不安定な代物のディ いたが、

の 一言に尽きるだろう。 の機関を見たときの帝国海軍将兵の第一 印象はとに か

機を動かした ₹ した電力を蓄電池に貯蔵、その電力をもって推進軸につながる電動 となるとこの機関の動かし方ももうあやふやだったりするわけで... 知っているそれと同じものだとしても今の海自にこの機関はない。 る程度わかってはいたが、 の海上自衛隊に所属していた者や技術者達のごく少数は扱 越後』に搭載されてい ij 艦内に電力を供給したりするのだ。 人数も十分ではなく、この機関が自分の るエンジンは、 ディー ゼル発電機で発電 もちろん未来 い方があ

:

っていた草薙少佐が戻ってきた。 科員達が途方に暮れているその時、 機関室の倉庫で資料を漁

機関とは根本的に違っているようで、どうにも動かせずにいまして あっ、草薙少佐!申し訳ありません、 どうにも我々が知って ίÌ る

..._

の仕様が記されている書類を見つけたわ」 それ ならもう大丈夫。 いくつか倉庫を漁ってい たら、 関

細な操作方法、 進軸回転数表など、 脇に抱えていた書類は機関の教範、操式、 機構説明、 機関運転に必要なマニュアル類などであり、 回転数ごとの速力などが記されていた。 機構説 明書、 速力対推

員には聞き慣れない名前だったが、遥香を含む海自 の推進方式だ。 の水産学校での実習に乗り込んだタンカー のを搭載していたし、 推進方式はディー ゼル・エレクトリック方式という大半の機関科 遥香の場合は『越後』 海自の潜水艦や海洋観測艦『にちなん』 にくる以前、 海上自衛隊に入隊する前 がこの方式とほぼ同じも の面々は知って はこ

大なも は着々と機関を動かすための準備を進めてい 書類を見たところ、 りの馬力は7万馬力、すべて合わせると42万馬力とい のだということが判明。 7 越後。 こ の推進軸は6 の書類などを参考にして機関科員 軸 舵は主舵並列 3枚 う膨

そして.....、

報告します少佐、 機関制御室より艦橋!機関始動準備、 始動準備、 電源供給準備共に完了しました!」 及び電源供給用意よ

て完了の報告を入れる。 準備完了の報告を受け て遥香は制御室から艦橋に艦内電話を通じ

『艦橋了解、電源供給開始せよ!』

・ 機関制御室了解、バッテリー残量を確認」

「残量9/10、バッテリー残量良し!」

「電源供給開始!」

「電源供給開始、了解!」

制御室での操作の後、 7 越後。 の艦内に次々と灯りがともっ てい

『艦橋より機関室、 電源供給確認。 機関始動せよ!』

「機関始動、秒読み開始!」

9...8...7...6...5...機関、始動始め!

「機関始動!」

右されないため、 とって燃費がもっともい ない大きな駆動音がなり始めた。そのままある程度の回転数まで達 エレクトリック方式の最大の利点は速度によって燃料の燃焼量が左 したところで発電機はそのまま定速回転の状態を保ち、 機関始動の命令が下り遥香は機関科員に機関の始動を命ずる。 すると、 少しの間をおいてディーゼルのお世辞にも静かとは言え 燃費が非常に良いということだ。 い状態で発電を続ける。 このディ その機関に ・ゼル・

造になっている。 た電力は一度、 先ほども述べたとおり、 蓄電池に蓄えられそこから艦内各部に送電される構 『越後』 ではディー ゼル機関で発電され

機関始動完了、 現在のところ動作に異常は確認できず

は 再度艦橋 機関科員が異常がないことを機関科員が報告し、 へ報告を入れる。 それを受け遙香

した」 機関制御室より艦橋!機関始動、 異常なしー ·燃烧、 発電開始しま

『艦橋了解、別命あるまで待機せよ』

機関制御室、 艦内電話を壁に戻し遥香は科員に待機の命令を伝える。 了解。 お疲れ様、 別命あるまで待機だそうよ」

ながら腰を下ろしていった。 その言葉に機関員達は、 油一つ付いてない真新しい部屋に戸惑い

方その頃、 の詳細な図面多数を見つけていた。 倉庫や金庫で資料を漁っ ていた楓は、 艦長室で

改造空母、 の戦闘力に、 成る程なぁ、 うまく使えば結構な戦力になれそうだけど.....」 いや実際には『蒼龍』型正規空母並みの航空機運用能力、 常用、 予備合わせて約60機を搭載可能な『隼鷹』型 自分の艦体ながら結構でかいな。 『大和』 以上

高校生であった楓には例え夢の中であっても遠慮願いたい話だ。 それは楓自身が最前線へ行くことを意味している。 正直、

「まっ、そのときゃその時だ.....」

その時、艦内放送が全艦に響き渡った。

します』 天霧大佐、 機関の燃焼を開始しましたので艦橋への移動をお願い

たいでなんか恥ずかしい 了解、 これより艦橋へ向かいますっと.....迷子の呼び出し放送み な

機関の始動が予想よりも早かったことに幾分か驚きつつも楓は部屋 を出て艦橋へ向かった。 まあ学校やスーパー の業務連絡みたいなものだな、 と考えながら、

えるよう命令する。 やがて全ての出航準備が整ったことを確認し、 通信兵へ信号を伝

軽巡『多摩』 へ信号! 〔我、 発進準備整ウン

軽巡『多摩』 へ信号、 〔我 発進準備整ウ〕、了解!」

『多摩』より返電!〔本艦ニ続ケ〕、とのことです!」

1) 発射できるよう『越後』 導しようと艦の右前方へ出た。 前 微速航行を続けていた『多摩』が速度を上げながら『越後』 のことではあるが。 に向けており、 多摩』 の主砲は砲手達がいつでも 警戒は解いていない。 当た を先

機関室に指示を与える。 楓は何とか頭の中から知識をひねり出して有線を通じて操舵室と

認しておくことにしたのだ。 れらの諸問題も解決しているのだろうと目星はつくが、 とがある。そのため、出港の用意が整ったということはおそらくそ 力ごとの回転数は非常に重要なのだ.....と、楓はどこかで聞いたこ了解、艦橋より機関室。 艦艇などは、スクリューの回転数などで速力を割り出すため、 速力対回転数などは大丈夫ですか?」 念のため確

たので、 進 『機関制御室より艦橋、 かんちょ 両舷前進最微速」 断言はできませんがおそらく問題ないと思われます』 艦橋了解。 速力対推進軸回転数表なども発見され 艦橋より機関室及び操舵室、 『越後』 ま 発

言い直す。 ただ臨時に指揮を預かっている最先任なだけであるため艦橋了解と 機関室からの報告に艦長了解と言いそうになってしまうが、 今は

それに従って命令を下した。 楓は右前方を行く『多摩』 からの速度指示を示す信号旗を確認

『よぉそろー、両舷前進最びそぉーッ!』

楓の号令により艦底の大馬力電動機が6軸の推進軸を動か

『越後』がゆっくりと前へ動き始める。

5時方向、 特型駆逐艦及び水雷艇2隻続航 します

後方の3隻も曳航する作業は滞りなく終了 て走り始めた。 したようで、

両舷半速、 取り舵20度よっそろー

よぉそろう!両舷はんそぉ とおりかぁ じ20度!』

舵戻せ、 両舷原速

舵もどぉせー、両舷原そぉ ツ

ない。 ヒヤ 暫くはそのまま航行していた『越後』 ヒヤしていた。 指示を間違えてしまわないか、 また向こうから撃たれるかと だが、 楓の 心は穏やかでは

「舵そのまま、 左舷原速、 右舷強速」

乗員達は複雑な思いを抱えつつそれぞれの務めをはたす..... にして 後』。その横を水雷艇の『 の上に座り込んでそれを眺めていた。 もまだ役割すら決まっていないので、 3門の魚雷発射管と12cm砲で牽制しながら併走していることに 『舵そのまま、 徐々に速度を上げつつ、 左舷原速、 鷺』と『鳩』が特型駆逐艦を曳航しつつ、 左へ舵を取り陸奥湾に進入し 右舷きょうそぉー やることもなく甲板や主砲塔 · ! ! てい 9

取り舵20度、 両舷そのまま」

『取り舵20度、 両舷そのままッ

右舷、 貝崎を通過ぁー <u>!</u>

いく 下北半島を通過し湾内に進入した『越後』 は徐々に速力を下げて

た。 する兵装の俯角を下げ、 示された『越後』は主錨二つ、 そして人目につきにくい場所を指定され、 白旗を掲揚。 副錨二つで艦を固定。 交戦の意志がないことを示し そこに投錨するよう指 主砲を始めと

くお願 早川中佐、 しし します」 私は艦の資料を纏めてきますのでその間、 艦をよろし

了解、 艦を預かります』

てい 大体の指示を出 た早川中佐に艦の指揮を預け、 し終えた楓は、 頃合いを見て司令塔で指揮を執っ 大日本帝国政府に提出しなけれ

ばならなくなるだろう『越後』 と降りていった。 の各種資料を纏めるために艦長室へ

してへたり込んだ。 艦長公室に戻ってきた俺は、 まず深い溜息をつき、 そのあと脱力

ところがあっただろうなぁ」 「ふう.....つ、疲れた。 精神的に疲れたぁ~……。 絶対指示で変な

い回しは全て自分で考えたのだ。 所詮はあるだけの知識を引っ張り回してきたに過ぎないので、

うで所々に穴があるようだし.....。 しかしその引っ張り出してきた知識もまだ頭に定着していない ょ

いけないし.....もうやだ、この仕事」 「あ~、まだ書類なんかも読んで艦の構造や乗員の把握もしない

だきちんとした船乗りの人たちが行うべき仕事なのに.....。 なんだ。 へたれと言うならば言え、そもそも軍艦の艦長なんて俺の専門 本来はちゃんとした幹部学校に通って、現場で経験を積ん

(なんでこんな右も左もわからない素人にやらせるかな.....)

た。 は忘れながら、 その原因のほとんどは自分の責任だということを都合よくその時 俺は書類を分けるべく艦長室の椅子に座ったのだっ

2名.....余剰人員は2281名と。 (え〜と、総乗員数は現在5393名で書類によると定員は31 何なんだこのやけに多い余剰人

そして数十分の時間が経ったがまた違う問題が俺の頭を悩ませる

あ 改めて身体見ると、 やっぱり女の身体って気になるよ

自分が動かし、 が、悲しい男の性である。普段はそんながっつかない俺ではあるが、 普通の青年男子ならきっとおわかりになってくれると思う 実質的に好きにできる体だ。 気にならないはずがな

な?) べ、 別に自分の身体なんだから胸ぐらいさわっても.....い

っとだけなら) いやいやいやいや駄目だろういくら何でも!……でも、 ちょ

ど俺の身体なのだから、遠慮する必要ないよな?しかし.....) (いやまて、 この身体はいわゆる越後の身体なのであって.....

俺は思ったものだ。 その時の俺の動きを誰かに見られてなくて幸いだったと、後から

ってきては引き戻しという何とも怪しい動きを繰り返していたのだ から.....。 のように錆び付いた機械のように小刻みに震える手を引き戻し、 なにしろ手を自分の胸元まで持ってきては他人の手を引き戻すか

の現状に構造、 しながらもなんとか耐えきり、資料を一応纏め終わった後は『越後』 そして数十分後、艦長室で俺は顔が若干赤くなっているのを自覚 乗員の顔と名前を覚えようとしていた。

言っても、 た乗員には光り輝いて見えるほどの豪華な食事が出された。 につき4切れずつ配られ、 その日の夕飯は主計科が冷凍庫から見つけてきた豚の角煮が一人 沢庵、 八杯汁、 白米、 物資が乏しい時期に撃沈された艦から来 前述の豚の角煮、 キャベツとにん (とは

じんの茹で塩もみ野菜といったものである)

う二度とこうして飯を食べることはないと覚悟していたが故に、 ういった当たり前の日常の有り難みがわかるのだろう。 中には口へ入れた途端に感激のあまり涙してしまう者もいた。 も

橋の防空指揮所の後部から伸びている信号用ヤードにいた。 割り振られた居住区へ入り仲間達と雑談をしている頃、 各々がそれぞれ夕飯も済ませ、当直の者以外は分隊ごとに臨時で 楓は一人艦

見える灯りをただ眺めていた。 る落下防止用の索に腕を乗せながら身を預け、 何をするわけでもなく、ヤードから足を投げ出して上下に二段あ 沿岸部にちらほらと

は夢なんじゃないか? 落ち着いて考えてみなくても、 普通に考えて今日一日のこと

そもそも普通の男子高校生だった俺が、こんな戦前の日本に突如

現れた怪物戦艦の最高責任者でめちゃくちゃ 美人の身体になってい てしかも艦の魂になっていること自体どうかしてる。

は病院の集中治療室にでもいるんだろうよ多分。 そうだよ、多分これで艦長室の布団の中に入って寝た次の瞬間に

き布団に潜り込むのだった。 論づけた俺はさっさとこの夢の世界から逃れようと、 それか.....うん、マイナス方向の考えはやめておこう。 艦長私室へ行 そう結

楓は大いに落胆したことは、 もちろん、 夢オチという展開になるはずもなく早朝に目が覚めた 言うまでもない。

軍省から沿岸部から7 て陸奥湾入湾から5日が経った4月6日 0 k m離れて航行した上で、 横須賀軍港へ入 軍令部及び海

港せよとの命令が られたのだった。 多摩』 経由で楓達『越後』 幹部たちの元に届け

故から一夜明けた現場に、 - ン車を運転していた男性1人が死亡、現場を歩いていた高校生1 山田さん?』 人を含む7人が意識不明の重体、11人が重軽傷を負いました。 \Box |車1台を含む車両7台が相次いで玉突き事故を起こし、大型クレ のニュースです。 昨夜6時半頃函館市湯の川町で、 山田アナが到着したようです。山田さん 大型クレー

見て下さい横転したクレーン車が橋から半分程迫り出してしまって です。現場は見通しの良い4車線の橋の上で起きました。 車六台が相次 ぱい....、 います!』 い、橋の上が完全に事故車によって塞がれてしまっています。ああ はい!こちらは昨夜、大型クレーン車一台、 いで玉突き事故を起こした函館市湯の川町の現場付近 ご覧下さ 普通乗用

う。 ヤスターが言った次の言葉に、 ったものの所詮自分には関係ないことだ、と思っていた。 故に巻き込まれた高校生には気の毒だ、運が悪かったな……とは思 中に見ていた朝のニュースの中で初めて知った。その時の私は、 テレビから流れてくる事故現場の惨状..... 私は時が止まったような感覚を味わ 私はそれを、 しかしキ 朝食の最 事

事故に巻き込まれたのは函館市湯浜町在住の、 さん

ツ!?

..... 今、何て言った?

ゃ おそらく聞き間違いだろう。 そもそもあい つが、 あんな時

間にあの場所にいるはずがない。

ったことに気にしながら。 かった.....いつもはこの時間のバスに乗るあいつが、 日借りていたあいつのコートを腕に携え、バスに乗って学校へと向 ご飯に鱈子、味噌汁、サケの切り身という朝食を終えた私は、 今日は来なか

か? .. おかしい、 であるのに、 学校の朝礼、 今日に限って、 毎朝欠かさず『おはよう』と言うのがこの先生の特徴 チャイムの音とともに先生が教室に入ってくる。 しかも終業日であるのにないのだろう

いのと合わせて、私の嫌な予感は減るどころか増すばかりだ。 心なしか顔色が悪いようにも見える。 まだあいつが登校して な

「起立、気を付け、礼!」

な、 始めない.....不意に私は、この場から早く立ち去れ、 学級委員が朝礼の挨拶をする。 しかしなぜか先生はなかなか話し という自分の声を聞いた。その直後..... 逃げる、 聞く

皆には信じられないと思うが.....昨夜うちのクラスの

_

て 聞くな、 先生は決定的な一言を口にした。 きくな、 キクナと頭が命令するが、 体が動かない。 そし

板が、 色を失い、 その瞬間、言い表せぬ奇妙な感覚とともに、 斜めに見えて..... 駒場が、 黒く 交通事故に遭い..... 意識不明の重体だ」 染まって.....何故だろうか、 私の世界はどんどん 真っ直ぐなはずの黒

鶴崎!?おい、しっかりしろ鶴崎!)

先生や周りの声がだんだんと遠くなっていくのをぼんやりと感じ

るかのように落ちて行った.....。

第一章(第二節・『陸奥湾へ』(後書き)

お久しぶりです、遅筆の陸奥でございます。

第二節、いかがだったでしょうか?

感のあるところ等がありましたらご遠慮なくおっしゃってください。 改訂前とは大きく変わったことと思いますが、 妙なところ、 違 和

りつけるのでしょうか.....?自分でも不安になります。 となりましたがこのペースで進んでも一体いつ運命の12月にたど さてさて、ようやく帝国海軍側との接触&そのころの未来では、

られるように頑張ろうと思います。 やら……。とりあえず来年中にはこの執筆速度を2倍、 予定では二章か三章で12月に突入する予定ですが、 3倍に上げ どうなる事

だと思われるためです。 更新時間が取れなくなるために12月中にもう1回はおそらく無理 実は12月の中頃に東京へ旅行に行くので、その関係で執筆時間や とりあえず、次回は1月に2回更新できるように頑張りたいです

ます。 ネットでの収拾のみ.....。 勧めの資料などがありましたら作者宛で教えていただけると助かりその時にいろいろ資料を買ってこようと思うのですが、なにかお 何せ地方なので大都市に出て行った時に集めなければあとは

厳しいご意見もお待ちしております! ご意見、 ご感想などがありましたらどんどんお聞かせください。

次回の戦艦越後物語・ 改 もよろしくお願い

鳩』の監視を受けながら横須賀へと向かっていた。 は今、 軽巡『多摩』 駆逐艦を曳航する水雷艇

皆目見当もつかないということが判明し、 者などの上層部の政治的妥協の結果などが主な理由だろう。 なってしまったことや、海軍省、軍令部、 局陸奥湾に調査団が来ることはなかった。 くつもあるが、その艦内に収容されている技術が生半可な調査では 当初は陸奥湾へ調査団を派遣、艦を掌握する予定だった 横須賀への回航が必須と 果ては陸軍や外部の有力 理由と思われることはい のだが

が、 すればいい、 れていると高を括ってしまったのだ。 簡単に言ってしまうと、とりあえず横須賀に回航してそこで接 艦内の警備火器の戦力などどうせ我が方と同じだろう、 という結論だった。 艦自体の戦闘力は確かに恐ろしい 高が知

分かっていないということもあり混乱が続いていた。 方法が皆目見当もつかない物が多数あったため、 まま房総半島沖へと向かう『越後』だったが、 そんな理由を知ることもなく、武装の俯角を下げ白旗を掲揚し 艦内では機材の使用 また艦内の構造が た

私は誰というように大変混乱していた。 飛行は航空機関係の作業がないため暇を持て余すなど、 信や専門職の医務などであり、 なんとかまともに機能している科は航行に必要な機関、 砲術や内務は配置場所が分からな ここはどこ 航海、

空隊を複雑な面持ちで眺めてい なことは知らないため各基地からは完全武装した航空隊が次々と飛 とても戦闘ができる状態ではないのだが、 の上空で警戒しており、 た。 手の空いている乗員はその航 当然日本陸海軍はそん

彼は 航空母艦『千代田』 渡辺小五郎上等飛行兵もまた、 に乗り組みエンガノ その中の一 岬沖海戦で初陣を飾 人だ。

り艦隊直掩機としてF6F て撃墜され今に至る。 ^ ルキャ ツ **L**₀ 戦闘機多数と交戦、 そ

雑談をしているのだ。 で暇を持て余している。 かは段々と甲板にでて黙って潮風にあたっているか、 彼を始めとする搭乗員の一部は現在、 最初は居住区に引っこんでいたのだが何人 後部第三、第四主砲塔周 搭乗員同士で 1)

その中で甲板にでてきているのは、その内のせいぜい3、 に一個航空隊の人数を凌ぎ、 72.5機分、三座機の機数に換算しても115機分に相当する。 人数を教えておこうと思う。 ったところか。 さて、 急ではあるがここで『越後』 その数、 単純に単座機345機分、 何と345人。 に現在乗艦している搭乗員 この人数は優 複座機で 40人と

と同じ搭乗員がいなかった、と言うべきか。 で一人も存在していなかったから..... できる相手がいないからだ。 それはさて置き、 彼は今とても暇だった。 自分の母艦『千代田』の乗員が『 いや、 正確に言うならば自分 今の彼には気軽に

乗員は一人もいなかった。 分乗していた第六五三海軍航空隊の搭乗員はいても『千代田』 在してはいたが、それは他の分隊の者たちで『瑞鳳』、 確かに『千代田』からも何人かの兵士が同じように『越後』に 『千歳』 の搭 に

隊を見上げるしかできなかったのだが.....。 ソンから隣を並走している水雷艇を眺めるか上空を飛んでいる航空 そんな彼が今出来ることは、 舷側から張り出している機銃スポ シ

「おい、ちょっと。そこのあんた」

ていると思っていない 不意に、 小五郎に声が掛けられる。 小五郎は黙ったまま水平線を眺めていたが、 しかしまさか自分に声をかけ

彼にはどうでもい 今更ながら気づくが、 そういえばこの艦には、 いことである。 さっきから声を発しているのは若い 女も乗っていたなと思い出すが今の

しかし.....

そこの.....」

る飛行甲板に目をやると..... その声に何か寒気を感じた小五郎。 ふっと自分より高い位置にあ

お前だッ

はこう述懐する。 き缶と、そして少しだけ見えた長い黄土色の髪の毛.....後に小五郎 その時、記憶に残っているのは視界いっぱいに広がった缶詰の空

たな、 思えば、 こいつと俺との腐れ縁はここから始まったんだっ

容、 以下、 叡』も予定を変更し房総沖で合流することとなった。 動予定だった軽巡『五十鈴』等が急遽予定を変更し陸奥湾方面へ急 行することに決定。 また有明湾から横須賀へ向かっていた戦艦『比 2日に横浜浅野船渠に入渠整備予定だった『摩耶』と華南方面へ出 さてその頃、回航先の横須賀軍港からは停泊していた戦艦『長門』 警備艦であった戦艦『榛名』、第二艦隊第四戦隊の重巡『愛 『高雄』、『鳥海』、同第五戦隊所属の戦艦『山城』、4月

くことが命じられる。 また空母『赤城』も別働隊として出撃、主隊の上空援護任務に就

なった。 旗艦は戦艦『榛名』、 指揮は横須賀鎮守府長官代行が執ることと

艦には51cm砲多数が搭載されているとの情報が入っている。 を阻止、 本艦隊の目的は目標艦が万が一敵性だった場合、これの東京湾突入 目標は、 十分留意してもらいたい..... 撃退すること.....これはまだ未確認情報ではあるが、彼の 警戒の下に現在、ここ横須賀へ向け回航中だ。 では、 解散」

で の短 い訓令の後、 各艦は順次出港してゆく。

取り北上を始めた。 水雷戦隊と三列縦陣の隊形を整えた後、房総半島を越え針路を北に 5隻は軽巡『多摩』 高雄 に率いられた戦艦『長門』 萩風』 以下の警戒隊に合流するべく直ちに戦艦、 雷 鳥海』 7 電 摩耶』 ` 比叡 暁 、軽巡『五十鈴』、 『響』からなる1 重巡、 重巡

諾、万一の際には鎮守府側と合同し目標を撃破することに合意した。 勤めているためだ。 長官である塩沢幸一大将が体調を崩したため短期入院をすることに 部が置かれていたが、今回の出撃は鎮守府としての行動であるため、 なり、たまたま予備役に入っていた同期の大将がその間代理として 山本五十六長官ら連合艦隊側司令部は鎮守府側に協力することを承 指揮官が鎮守府長官代行となっているのは、 同艦隊の『長門』や『愛宕』には連合艦隊司令部や第二艦隊司 本来の横須賀鎮守府

が一の戦闘に備え東京湾口に進出、臨戦態勢を敷くこととなった。 ようと横浜沖まで曳航、 これに伴い、 さらに、 横須賀に残る艦も急ぎ鑵に火を入れて蒸気圧を高め、 艤装中だった空母『翔鶴』は少しでも危険から遠ざけ 退避することとなった。 万

ものなら爆弾を雨霰と降り注がせる構えだった。 を絶えず『越後』上空に張り付かせ少しでも不穏な動きを見せよう また、 九九式艦爆、 各地の海軍航空隊、 一式戦『隼』、 九七式艦攻、九七式重爆や九九式軽双爆、 一〇〇式司偵、 並びに陸軍飛行戦隊も零戦、 九七式司偵など多数の機体 九七式

に落とされ た陸海軍が図らずも共同作戦を執るという事態にもなっていた。 の出現によって大日本帝国陸海軍は、 ていたと言えると同時に、 皮肉なことにいがみ合ってい まさしく混乱の底

安定していた。 ったが、 航行自体は機関科、 航海科、 内務科員達の尽力でなんとか

塔内の探索や、 すがにそれは不味かったようで遭難者が続出したが。 なかった水密扉を解放し、艦底近くの水密区画までの探索など。 内の状況把握 その間、航行に関係のない者たちの一部は早川中佐指揮の下、 のために艦内各所を探索していた。例えば主砲、 構造の調査、果ては陸奥湾調査では軽くしか行われ 副砲 さ

た。 しかし、 その苦労に見合うだけの戦果を得ることができたのだっ

それは....、

器に関する設計図や解体された状態で部品ごとに梱包されていた多 数の工業機械などである。 1 9 3 0年以降の多岐にわたる航空機や艦艇、 これまでの歴史や工業関係などの詳細な資料や機密書類、 戦車などの多数の兵

3m近く沈み込んでおり、 などを考慮しなかった場合の復元性に影響が出ない最低限の範囲で 区画に細分化されており、その内乗員が立ち入れる区画には、 いでか乗員は知らないが『越後』 山のような資料や機械が丁寧に梱包されて保管されていた。 の水密区画はその巨大さもあって1 速度、 の吃水線は本来の吃水線から2~ 運動性能共に低下している状態な ,300以上の水密 そのせ 戦闘

どうかというと微妙だ。 に所属していた面々はこれらがこの時代にとってはまさしくオーパ ツ並みの資料であることを悟ったが、 資料などの中身がわかってくるにつれ、 これらの資料が活かせるか 楓や未来の企業、 自衛隊

例えば、 7 P 9 フラ -5 1 1 D □ ングフォ ムスタング』 や A D 9 S スカイレ C

Т 客機やF・1 E』などの超音速戦闘機、 3 しかし u・95『ベア』などの超大型爆撃機 0 C Ğ 5 В 5 E 『ストライクイーグル』やS 4 7 -7 4 7 B -7 3 7 7 D C 9 B - 52 『ストラトフォ 7 A A - 320 3 4 0 等は活かすこともできるだろう。 B - 767 \ といったジェッ u・35『フランカ トレス』 に

S - 24, SPY バンシー』 ,レイ・レーダーの資料から果ては架空機F ホーク』 『九〇式戦車』やT ` ` А Н -『エステバリス』等々.....。 - 1D等アクティブ、パッ 1『コブラ』 - 80UD『ベリョー х А Н -6 げ A -シブ双方のフェイズド 4『アパッチ』 に S 『ファー 0 O P 7 シ

うこととなる。 目見ただけで作れるかこんなモンと後に見た各方面関係者全員は思 多数 の航空機や戦車、 果てはロボットの資料が報告されたが、

思ったが、よく考えてみると『越後』そのものが火葬の固まり的な 存在のために納得する。 なお楓は【紺碧の艦隊】 などの火葬戦記系統がないことを疑問

機械は速や とにかく、 役に立つのかどうかは微妙ではあったがこれらの資料 かに楓以下 の艦首脳部に知らされた。

の各種資料を押収、 \neg 艦底部を探索中の分隊より、 さらに探索を続けるとのこと!』 報告!水密区画、 船倉区画にて多数

資料?何の資料ですか」

報告によりますと『えいぶらむす』 7 とむきゃっと』 等の資料だそうです。 ゃ 9 L١ ぐる。 ` 『ふらん

の報告を聞いた時、 俺は耳を疑っ た。

てくださ ません、 それらの資料に正式名称は書かれ てい ない

り返された後、答えを伝えてきた。 早川中佐が報告者に聞き返すやり取りが有線の向こうで何回か繰

済むかもしれない方法を考えついた.....なんのことはない、 考えつくことなんだけども.....。 かしこの時代で、果たして役に立つのだろうか.....甚だ疑問だ。 その後も続々と上がってくる新情報、それらを聞いているうちに なんということだ、そんなオイシイ.....もとい、機密資料が? 『とむきゃっと』の正式名称は、 ひいては現在『越後』に乗艦している女性乗員が離艦しないで □ F -1 4』だそうです』 誰でも

防空指揮所より艦橋、 前方に艦隊を視認!』

その名を呟いた。 る艦橋の殆どのも者が前方から接近してくる艦を確認しようとする。 ら接近する艦隊を捉えたと報告が入り、すぐさま双眼鏡が手元にあ そして三列縦陣で接近してくる艦影を捉えたとき、 楓がその考えが浮かんだまさにその瞬間、 艦橋の見張りが前方 艦橋の誰かが

榛名。 だ....

それに続いて、 『長門』に『比叡』までいるぞ.....!」 次々と艦橋職員の面々が艦の名を挙げてい

あの艦橋は、『山城』だ!」

だぞ .。上の航空隊も併せると戦艦1隻を沈めるには、 高雄 型が4隻.... 戦艦4に重巡4、 それに駆逐艦が十数隻... 十分過ぎる戦力

時の切り札である日本戦艦10隻の内、 て修理が完了したばかり 級重巡4隻に一個水雷戦隊相当の戦力とさらに、 が敵性勢力だった場合に備えて出撃してきた艦隊は、 の空母『赤城』 4隻に加えこちらも貴重な これらが当時日本の 別働隊と

海軍が即座に出せる全力であった。 横須賀におい て即時出撃可能な艦の全てだっ た。 これが、 現在日本

いるかを示しているということでもある。 これらが示している事は、 日本海軍がい かに『 越後』を警戒して

せんからね で迎えたかったですが、今の状況では残念ながら適いそうにありま 「随分と、盛大な出迎えですね……出来ればこちらも祝砲か登舷礼 艦橋内に緊張が走るが、そこへ楓が気楽な声色でこう言っ

は艦橋職員の緊張を少しは和らげるのに役に立ったようだ。 内心びくびくなのを隠しながら冗談めかして言う楓、

事なものをご覧に入れましょう」 わせていただけるのならば、 いつでも登舷礼を行って見せますよ。そうですなぁ、自分としましてはやれと言われるのならば いかなる精鋭艦にも負けないほどの見 それこそ自分の元部下達を使

ってもよろしいのかな?』 『ほほう、横川君。 それは我々『武蔵』乗員に対する挑戦と受け取

『天城』乗員には敵わないでしょうがねぇ」 ええどうぞ。 まあいかに黒石中佐の『武蔵』 乗員といえど、 我々

れたまえよ?』 『言ってくれるな、 横川君。 我々の練度の高さを見くびらないでく

「はいは 艦がとても素晴らしい艦なのはわかりました..... まぁ私の『信濃 には敵わないでしょうが」 いはい、 そこまでにしておいてください。 お二人の艦を愛する気持ちはよぉ 5 武蔵』と『天城』 っくわかりまし

場所 ちょっと待ってください、その意見には異論があります 砲術長黒石磐雄中佐が反論 の言葉の意を汲み取り、 えるのでである。これである。これである。これでは、一年の別撃指揮所から砲術関係での最上位士官、 軽い口調で返した横川に対し予想外の し始めた。 戦艦『武

のままでは どうやら一言多かったようだ。 無限ループになりかねなかったために楓が止めに入 だが、 確実に艦橋内の緊張

恐怖に満ち溢れ 笑みを浮かべ か緩くはなっ は和らい だ。 ている楓ではあるが、 その ているように感じることができる。 でいた。 た。 証拠に、 先ほどまでの痛いまでの緊張感がい 表面とは裏腹にその心中は不安、 しかし表面上は微

を避けるために、 (俺にはあんな相手とやりあう度胸なんてない..... 精一杯のハッタリをかましてやるしかない、 今は 最悪の か :

り出し 小なり同じ艦 いだけの話な この時代に てい なら今は、 くしか おい の仲間がいたが、 のだが.....しかし、 ζ な 周りを最大限に利用して、 ιį 楓に居場所はな 楓にはそれがな その力さえ今の楓には不足して ſΪ 周 ij 時間をかけてうまく作 ίÌ の将兵たちは大 それなら作れば

1)

ただの高校二年生にとって、 それはあまりに酷な話だっ

前方に、 目標艦を確認。

を見た。 の報告に、 彼は双眼鏡を手に取り前方から近づいてくるその艦

とおそらく搭載され 7 9 第一印象は、 と比べてみると、 の 4 1 C ただひたすらに大きいということだ。 m 相当のものは確実はず.....。 ている主砲も情報通りなら51 その異常さがよくわかる。 C m あの大きさだ 横を並走する 最低でも

指示を下す。 全力で撃沈 この『 かもしれないその相手だが、 榛名。 しなけ ħ そして海軍最強の『長門』 ばならない それでも敵対行動を見せた それを眺めつつ、 をもってしても敵 彼は隷下 のならば の わ な

け 砲水雷戦用意を下令。 いつでも交戦できるようにして

横須賀鎮守府長官代行、 海軍大将鶴鷺鷲として...

「『榛名』変針します、本艦と同針路!」

目標、全主砲及び発射管を本艦に指向しています」

型『萩風』、 舷側の艦名から特3型『響』、『暁』、『雷』、『電』、『陽炎』 長門。型戦艦『長門』 目標陣容、戦艦4隻は順に『金剛』型戦艦『榛名』 高雄。 ` 摩耶』 『嵐』と思われます」 ` 、『扶桑』型戦艦『山城』。 『鳥海』、軽巡は『長良』型1、駆逐艦は 重巡は『愛宕』

所属機と思われる」 「上空の航空隊に太い赤帯1本の九七式艦攻を発見、 空母『赤城

は手元にあるマイクを全艦放送に設定し口を開いた。 『赤城』まで出てきてるのか.....こりゃ相当警戒されてるな。 俺

ずる。 ても、 は多数の艦に砲口を向けられているが、本艦がいかなる事態に陥っ 繰り返す、 例え撃沈されるような事態に陥ったとしても反撃、こちら艦橋、天霧楓大佐より総員に達する。 発砲は厳禁!各人の忍耐に期待する』 発砲は禁 現在本艦

とは言ったものの、 一番発砲しそうなのが俺なんだよなぁ

それも杞憂に終わったようだ。 かの艦魂がやってきたらどう対応しようかと頭を悩ませていたが、 横須賀までの航行中、 もし向こう側の、 長門』 や『榛名』 なん

が 感じで分かったからで出ていくときにも反応が感じられなくなっと 3、4人ぐらい入ってきたなというのが直観というべきか?そんな のあたりで帰って行ったらしい。らしいというのはなんか知らんが 『越後』の艦魂だというのは見破れなかったらしく諦めて野島崎 いや、実際に3、4人ぐらい乗り込んできたみた l1 なのだが、

しかし艦橋に乗り込んできたときには驚い た。 背中の冷汗がダラ

ダラと流れ落ちていたけど気づかないふりをしてやり過ごしたが...

:

ないね。 にも先にもこの時ほど『越後』の女性乗員の多さに感謝したことは るらしいが.....その数人て何?それはまあ置いておくにしても、 きなかったらしい。 どうやら、あまりにも女性が多くて誰が『越後』の艦魂 会話を聞いた限りでは俺と後数人怪しい人がい が判別

でいるときとかに接触してもらいたい。 と思われてしまいそうだし.....。 の人には姿が見えない艦魂と話していたら周囲の人間には変な人間 何しろこっちはまだ断言はできないが半人半魂らしいから、 せめて艦長室にいる時とか、

だった。 は水先案内船の誘導に従い横須賀軍港に入港。そこからがまた大変 その後、 最後まで警戒されながらも横須賀にたどりつ いた。

指定された浮標まで、残り8000!」

ただしくなる。 甲板作業員に達する!入港用意!係留、 ラッパの号令と共に拡声器から指示が出され、 投錨の用意を開始せよ 甲板はにわかに慌

「速力、両舷原速に落とせ!」

『速力、両舷げんそぉーく!』

人港準備が始められていた。 『越後』 は監視の艦と共に東京湾に入り、 横須賀港に入港すべく

は場所によっては難しい、 る場所が限られているらしい。 停泊していたところだった。 場所は海図を見て調べたところ、そこは未来に在日米軍の空母が とのことだ。 『越後』の吃水が深いために停泊でき 横川少佐曰く、 この吃水では呉入港

に艦を操ることが可能なのだ。 良好な操縦性能が窺える。 力の調整がスチームタービン艦に比べ格段に良く、 しかもかなりの大型艦にもかかわらず小刻みに動くその姿からは、 錨場に近づき『越後』 の速度が徐々に落ちていく。 電動機で推進軸を駆動する『越後』は速 低速域でも自在 しかし低速、

- 「距離4000切ったぁ
- 艦長操艦、 両舷半速!」
- 『両舷はんそぉ

りにしながら浮標へと艦の舳先を持っていく。 更に近づいたところで楓に操舵が変わり、 見張りからの報告も頼

左舷微速黒10、 右舷最微速赤5回転整定!」

だ。 操艦するしかないのだが、 ような低速域ではもはや舵は機能しないので推進軸の細かな調整で 距離が2000を切ったところでさらに細かな操作が入る。 正直楓の頭の中はもういっぱ いっぱい ഗ

「両舷最微速!」

「 現 在、 切りました!」 錨位500 m 前 残り200前 0 0

隣では横川が錨位までの距離を逐一 楓に報告する。

- 錨入れ!主機反転、 後進原速!」
- 主機反転、 後進げんそぉーく!』
- 両舷停止ッ

逆回転し『越後』は後進する力と前進する力が相反しあい若干前進 した後、 艦首にある巨大な錨を投錨した直後、 停止した。 推進器が若干遊転した後、

両舷停止、 行き足止まりました!』

れ が成功したのかどうかはわからなかったが..... ぴたりと錨位のところに艦首が止まる、 がしかし楓にとってはそ

- お見事です、 大佐
- 航海科の皆さんの腕がよかったおかげですよ」

手く停泊できたのだとわかったのだったが正直言って航海科の腕が よくなければここまで上手くいけなかっただろう。 横川少佐が労い の言葉をかけてくれた。 その言葉で楓は何とか上

たが、 11 入港が完了した瞬間にどっと今までの疲れを感じたような気がし まだ色々な作業が残っている以上休む時間などあるわけがな

とともに艦内の各作業の指揮を続けたのであった。 打っ 倒 れそうになる体に鞭打ちながら、 楓は夜まで他の土官たち

くも1週間が経った.....。 私が倒れてから...... すなわちあいつが事故に巻き込まれてから早

染相手に。 そうだ、 あいつは未だ目を覚まさず、 何でこんなにあいつの心配ばかりしているんだ?あの時だって 事故に遭ったと聞いた瞬間に意識を失って.....ただの幼馴 昏睡状態が続いている。 しし

を見る限り、 筈の空き地に、いつの間にか小さな建物が建っていたのだ.....看板 思議というか変というしかない光景が映った。 バスを降りて家へ帰る途中、ぼんやりと歩いていた私 喫茶店らしい。 朝には何も無かった の視界に

るූ た。 正直、 なんというべきか.....私の直感がここに入るべきだと告げてい 入るような気分ではなかったのだが何故か興味が湧い て ㅎ

少しくらいならまぁい 紅茶とケーキを頼むぐらいだから、 いか、 と私は結局その喫茶店に入ることに 財布にはさほど響くまい。

うよ な占い部屋といった感じ りも八〇一 内装は、 私の予想よりも大分暗かった。 ・ポッター に登場するトレ〇ー のほうが強い気がする。 これでは喫茶店と 教授の教室みた

「いらっしゃい……」

「ゐッ!?」

背後からいきなり声をかけられ、 思わず奇声を発してしまった。

う、後ろからいきなり現れるな!

「こちらへ、どうぞ.....」

どうやらテーブルへ案内してくれるようだが.....。

「 ご注文は.....」

さっきから消え入りそうな声ばかりで本当に接客業をやる気があ

るのだろうか....。

とりあえず、メニュー の中から私がよく食べるケーキを頼むこと

にする。

「じゃあ.....紅茶とガトーショコラを」

「 少々お待ちを.....」

.... 普通に喋るようにするだけでも、 結構な美人に見えると思う

のだが。今の彼女はまるで……、

(幽霊みたい....)

゙ありがとうございました.....」

「ご、御馳走様でした」

あの人、 ョコラも私の好みだった。しかし、うん、紅茶は濃さも温度も程良くておいしかったしガトー 一番気になるのはあの店員..... シ

ずっと昔に、 会ったことがあるような気がする。

ここで翔が出てきたんだろう。 なんとなく、だけれど翔も一緒にいたよう、 な..... あれ、 なんで

に着いたのだった。 釈然としないその疑問を胸に抱えながら、 私は改めて帰途

《駒場翔》登場人物紹介

出身:北海道函館市程の職・学生、高校二年生

身長 : 1 7 3 C m

年齢:17歳

性別:男性

誕生日:11月15日

家族構成:父、母、妹

好きな物:軍艦 (大小問わず) 海 自然、 宇宙、 歴史、 絶景、

模型を作ること、歌を歌うこと、 のんびりと過ごせる程度の平和、

美味しい料理、温泉

嫌いな物:辛い物、 戦争、 ナチス、 精神主義、 A B C 兵器、

合主義、 デスクワーク

ば太平洋戦争直前の昭和16年4月1日、戦艦『越後』の最高責任 淑恵の影響を受け旧海軍を始めとする海軍艦艇に興味を持つ。 者として、そして艦魂としてタイムスリップをしたかのような事態 死亡フラグには非常に敏感である。 何度も淑恵のアウトドアに付き合わされ何回も死にかけた経験から、 さらすことが多い。 に陥ることとなる。 とは嫌いだが、 ごくごく平凡な中流家庭に生まれた高校二年生。 知り合いが傷つくのが嫌なために敢えて身を危険に 冬の猛吹雪の最中、クレーン車と衝突し気付け 部活動は弓道部に所属。 大の船好きの幼馴染、 基本的に争いご また

: 学 生、 高校二年生

出身 :北海道函館市

身長 : 1 6 8 c m

髪型 : 長髪

年齡 :17歳

性別:女性

誕生日:12月14日

家族構成:父、母、 尺

好きなもの:艦船、 航空機、 試合、 正々堂々、 アウトドア、 旅行、

水泳、運動、 牛乳、武術、 温泉

寒い場所 つこいやつ、 嫌いなもの 腐女子、 ・口調を馬鹿にするやつ、不意打ち、 いじめ、ご都合主義、 戦争、 机に向かうこと、 卑怯な行い、

至る。 淑恵の影響が大きい。 どうにも自分のイメージと合わないような気がしてずるずると今に 影響を受け、 っている。 石に高校生にもなろうかという時には直したいとは思ったものの、 なっているのは自身の喋り方であり、まだ幼稚園の時に見た映画の も例に漏れず幼少の頃から武術を修めてきた。 3代前の先祖が引っ越してきて以来の付き合いで、 一緒の学校に通ったりするなど付き合いは長い。 ほうが好みである。 の幼馴染。 部活動は剣道部に所属。 ちなみに海軍戦闘機よりも陸軍戦闘機の二式単戦『鍾馗』 喋り方が若干というかだいぶ男性的になっている。 実家は本州から移ってきた代々の武術家であり淑恵 ま た、 何度も翔を引き連れてアウトドアに行 大の船好きでもあり翔の軍艦好きは 翔の家、 コンプレックスに 翔とも小中高と 駒場家とは 流

資料を八重洲ブックセンターなどを始めとする各所で購入してきま 使う機会がありませんでした。 もう少し寒いかと思ってマフラーを持っていったのですが温かくて した。 先月の終わりごろに東京に行ってきましたが、 また皆さんに教えていただいた各種 温かいですね東京。

ので、上手く活かせるかどうかは分かりませんが出来る限り努力し ていく所存です。 これからどれほど活かせるかは筆者である私の腕にかかっている

ではないので.....。 を達成できなければ終わりまで何年かかってしまうかわかったもの さて、今年の目標はズバリ『月二回更新』です。 最低限この目標

いです。 惑をおかけしますが願わくば最終話まで付き合っていただければ幸 完結まであと何年かかるかわかりませんが、 読者の皆様にはご迷

63

第一章(第四節・『弱き艦長』

取るべき道を決めるためだ。 横須賀入港直後、 楓は各科の士官を招集した。 今後の が

聞などを読んでもいまいち現実味が湧かず、 なっていたのだ。 陸奥湾でも一応の議論はしたのだが、 『多摩』 延々と保留する結果に から提供された

ならない。 今日中……遅くとも向こう側が接触を図ってくる前に決めなければ これ以上引き延ばすわけにもいかないと判断した結果、 年前より後、又は開戦から1年以内だと判断がついた 比叡』は多くの乗員の証言では、大改装終了が1939年以降、 して比較的早期に沈没しているためこの艦の存在によって開戦の2 しかし、 『霧島』よりも測距儀の位置が高いのが特徴であり、 は1944年まで一三式方位盤を搭載しているため、 今回の在横須賀艦艇による艦隊の陣容 何としても 例えば戦艦 よって そ

gital Ve ジタル バーサ 、パーサ でした。 る情報媒体 の論議が行われた。 そのため横須賀到着後、 ... である。 Versatile Disc、通称DVボーサタイル ディスク ディスク ディスク という簡潔な表題の数枚の薄い円盤、 そこで初めて出てきたのが、《太平洋戦争》と 直ちにこれからの行動方針を決めるた 通称DV 未来でDi Dと呼ば め

になっ が記録されているらしい ろう生々 しかしそれは映像を見た者たちに想像を絶する衝撃をもたらした。 たような記録映像なのだろうと高をくくっていた楓や自衛官たち その映像は、 それぞれ たのだが.....その提案が果たして、幸か不幸かは解らない。 く与えられた。 しい描写なども多数あり、 の歴史認識が食い違う中で、 どうせ普段テレビやビデオに映ったり、 映像には普段、 から試しに見てみようじゃないかという話 8月前後に放送されたりする終 せっ 表には絶対出てこない かく日本に関する 市販されて であ

程度のことは知っているはずの自衛官たちでさえ受けたこの衝撃は、 戦特番のようなもの 口で言い表わせることのできるようなものではなかった。 しか見たことがない楓は勿論、それよりもある

会》編まで、 もたらした影響は大きかった。 フッ、 と映像が途切れる。 一日の大半を費やしてまでの視聴、 《太平洋戦争》 編の後、 それがそれぞれに 《現代日本社

せる状態ではないと楓は判断し、明日再度集まることを命じたうえ ら難しい精神状態であり、 で解散を宣言した。 カッと目を見開き、何かを堪える者……今日はもはや皆まともに話 となり視点が定まらない者、俯いて肩を震わせる者、正面を向いて 腕を組み考えにふける者、 かくいう楓も今はまともに物事を考えることす 吐き気を抑えることで精いっぱいだった。 男泣きに泣く者、 あまりの衝撃に茫然

だけは漠然と理解 ったようだ。ただ、 下にこの結論を伝えたが、しかしきちんと理解できたものは少なか 会合に出席した士官のほとんどは、 していた。 おそらくもう二度と家族に会えないということ その日のうちにそれぞれ 部

はぁ.....はぁ......畜生ッ!」

艦長寝室の奥にある洗面台、 その前で俺は崩れ落ちてしまってい

た。

代の前にはシャボン玉よりも脆いものでしかなかった。 心構えは出来ているつもりだった。 でも、そんなものこの時

怖 ろしく、 映像に出てきたのは、 そして哀しいもの。 今まで見てきたどんなものよりも衝撃的で、

中部太平洋の島嶼戦で日本軍が行った万歳突撃、 弾雨の中に突っ

込み、 々しい記録 る瞬間の映像。 で、海岸へ向け突進する最中に隣の艇が砲弾の直撃を受け、飛び散 肉塊に変わっていく日本兵。 普段の生活では絶対に目にすることはないだろう生 アメリカの海兵隊が上陸用舟艇

された。 はどこへやら。今は込み上げてくる吐き気を堪え続けるという情け ない姿をさらしている。 自分が今いる時代、それがどんな時代なのかまざまざと思い 何が起きてもいつもどおりにいよう、そんな最初の気持ち 知

川中佐を始めとする下位の人たちにこんな姿を見せることはできな 厄介なことに俺は今、この『越後』における最高位の士官だ。 弱音を吐く事なんてできない状況なんだ。 早

責任を背負う立場が、こんなに辛いものだなんて思わなかっ

る奴がこの時代、 ろというんだか..... 椅子に寝転がる。 かれた俺をいきなり戦争のただなかに放り込んで、 「ふう.....これから俺は一体どうしていけばい 暫く経って、 やっと吐き気も治まってきたので、 果たして俺の他に何人ぐらい どうでもいいけど艦長公室にあるソファに寝転が いのかなぁ。車に轢 いるのだろうか? 隣の公室にある 一体全体何をし

愚痴の一つも言いたくなる。

男児 やられる。 中でやっていけるものか。 何故か成功するハッタリのおかげだ。 今日まで何とかしてこられたのは虫食い穴だらけの知識と こんなことでこの時代を生き抜けれるのだろうか? 今はともかくとして、だ 言っているうちに、どんどん先が思い そうでなければ平成 が経験豊かな軍人たちの の一高校

が響く。 考えれば考えるほど暗い考えになっていく頭に、 いきなり電子音

ているらしい。 体を起こして発生源を探ると、 どうやら執務机の上から発せられ

情報を表示してきた。 液晶画面のディスプレイの電源が突然入り、 どっこい しょ、 と立ち上がり机に近づいてみると、 勝手に検索、 置かれていた なにかの

は かくその情報を確認して.....俺は声を失った。 勝手に動き出したことに得体の知れぬ恐怖を俺は感じたが、 そこに映っていたの とに

副長室に戻ってからどれだけの時間が経ったのだろう。 過ぎた時間は10分か、 1時間か、 あるいは数時間か。 彼がこの

明日の論議に備えるために。 会合が終わった後、彼を含めた中佐級の者たちは再び集まっ

提案として出そうとしていた。 それを楓に上申し、 も意見は纏まりは めたかったのだ.....しかし楓も言っていたようにあの状況ではとて こさなければまずい。 そのため彼を始めとする一部の者たちは、 現在『越後』が置かれている状況を鑑みると、 しないだろう。だがやはり、それでは遅いのだ。 彼女からの許可を得て明日の論議に彼女からの 彼の本心としては、本当は今日中に意見を纏 あらかじめ意見を纏め 明日には行動を起

ろう。 の代表とするのに問題はないと考えている。 女の指揮は、時々挙動不審な部分があるが的確なも がその大きな原因となっているのは、 後の問題は 彼らが既に結束しているのだから、 彼らは全員、 幸いにして彼らの見解は皆一致していた果たして楓がその提案を、 一応は楓が指揮をとることに対して異存はない。 その提案はほぼ確実に通るだ 確かめるまでもないことだ。 受け入れるかどうか。 のだ、 あの記録映像

ちらの日本海軍に女性軍人がいないことは明白である。 はとても ただ少し問題があるとすれば、 40代には見えないことだろう。 楓は女性であり、 陸奥湾での一件から、 そしてその それがより 外見

た影響を与えるかわかったものではない。 によって不明艦の最高責任者なのだ、 交渉の際に相手方にどうい

彼が今やるべきことは、その提案内容を楓に上申すること。 しかし、それは彼一人が考えたところで意味のないことだ。

は 織り 君が指揮をしていたから」と言っていたが..... ながら彼は考える。 黒石中佐曰く、「 天霧大佐が指揮を執る前 なぜこうなってしまったのだろうか、軍服のジャケットを羽

そう判断し、 こうなった以上、考えても仕方がない。 部屋の扉を押した。 彼 早川秀次中佐は

静かだとどうも落ち着かない。 中にいるのが、自分一人だと錯覚してしまいそうになる。 た兵員室の中には多数の兵達がいるのは分かっているのだが、 人影一つ見当たらない通路.....この『越後』 と言う巨大な戦艦 壁を隔て 0

く。中から出てきたのは機関を統率している.....女性。 んでいた。 早川がそう思っていたその時だった、 彼がうろ覚えだった名前をひねり出す間に、 前方のとある一室の扉が開 彼女は早川の名を呼 確か

「あら、早川中佐じゃないですか」

青いつなぎを着ている。 草薙、遥香少佐だったか……ん? 部屋から出てきた彼女は何故か、 船の刺繍がついた青い帽子に、 何故つなぎを着ているんだ」

れない奇妙な服装だ。 船の背景には棒状の物体が交差している.....秀次から見れば、 刺繍には……DD・107うらかぜ、と書かれた文字が船を囲み、 見慣

く上下が分かれた作業服のようだ。 つなぎ.....? なるほど、 ろと変わっているらしい、と納得する。 薄暗くてよく分からなかったが、 ああ、 これは私達海上自衛隊の作業服 やはり未来の日本海軍は現在と 確かにつなぎではな なんで

そういえば、中佐はどちらへ?」

がら、 遥香が早川に尋ねる。 早川はその理由を説明した。 まだ制服だったな。まだ着替えていないことを思い出しな その視線は彼の服装に向いていた..... そう

「なに、 たまたまその役目を請け負っただけだからだ」 た意見を、大佐に上申するところでな。私が今制服を着ているのも、 ねばならんから、あの後に中佐級の諸氏が意見を出し合ってまとめ をすると、 少し天霧大佐に御用があってな。 明日も意見がまとまらんかもしれん。流石にそれは避け 昼の会合があれ では下手

「なるほど......早川中佐、私もご一緒してよろしいですか?

「それは別にかまわんが..... まあよかろう」

も上の立場だ。 相当の階級でありながら『越後』の海上自衛隊組の中では現在、 ならない以上、 何故? という疑問が頭に浮かぶが.....彼女は三佐、旧軍の 自艦だけではなく、他艦の者たちまで率いなければ 今後の行く末を気にするのも当然の話だろう。 最

見られて困るというわけではないのだ。 そう、 彼は自己完結し承諾する。どうせ、 これから上申する案も

それから早川と遥香は、暖房の効いた..... 艦内を歩きながら、 艦長室を目指した。 むしろ効きすぎて少々

もしかしたらもう寝て休んでいるかもしれない。 途中、 通路に迷いながら二人は艦長室に辿りつく。 時間も時間だ、

その時、 半ば諦めながら、 中から微かに声が聞こえてきた。 ノックをしようと手を扉に向け ようとした

ろというんだか かれた俺をいきなり戦争のただなかに放り込んで、 『ふう.....これから俺は一体どうしていけばい いのかなぁ。 体全体何をし

二人の動きが止まる。

そういえば大佐は 車に轢かれた? 言われたのは戦艦『信濃』 言い方はあれだが、 艦と運命を共にしたのではない 艦長だったことだけ 戦死された原因を言って のか、 10

の理由がすべ の瞬間、 てつながり、 彼の中で何故、 原因がわかった気がした。 楓だけ同じ艦の乗員がい な そ

「草薙少佐」

「ハイッ!?」

しまい誰にも話さぬようにすること、 今この場で聞いた一切のことは今後、 復唱!」 他言無用である。 胸の内に

胸の内にしまい誰にも話さないようにすること、復唱終わり!」 「復唱します、今この場で聞いた一切のことは今後、 他言無用

楓の死亡した理由が、まずいのだ。 周囲には、気まずそうに視線をさまよわせていた遥香ただ一人。 このことを他の者たちに知られてはまずい、何がまずいのか?

性が極めて高 の人間だ。しかし、 早川を含め、この艦に乗っている軍人の大半は『戦死』 い..... 実際は軍人ですらないのだが。 楓は今の言葉を聞く限り『事故死』である可能 したはず

ある。 で死んでいない、そのことを細かく気にする者が出てくる可能性も 彼はもちろん事故死とか、そんなことは気にしない。 余計な可能性は出来る限り排除すべきだろう。 しかし戦場

にできることは、 の命令系統ではない。 遥香を伴ってきたことを早川は後悔したが、もはや遅い。 他言しないよう命じることくらいだがそれも正規 後は遥香次第なのだ。 彼

今まで来た通路を引き返す彼らの周囲を、 重い沈黙が包みこんだ。

艦長室を訪れた。 機関区に向かうという遥香と別れ、 暫く間を置いた後早川は再び

よろしいでしょうか?」 「夜分遅く失礼します天霧大佐、 早川です! 御用があるのですが、

『どうぞ』

間髪をい れずに中から返事が返ってきた。 まだ寝てはいなかった

失礼します」

早川が初めて入る『越後』 の艦長私室、 その扉を開け

部屋の奥の寝台、そこに楓はいた。

既に軍服は脱いで着替えた..... 男物の着物を着た姿で。

程の事があったのですか」 どうしま した、 早川中佐?こんな夜に尋ねてくるとは、 なにか余

の用を問う。 今まで読ん でいたであろう本を傍らの机に置きながら、 楓は早川

失礼を承知で、 めたのです。その件で、 再度集まりまして......明日の議論に向けての合意案というものを纏 「は、実は先の議論が終わった直後、 お伺いしました」 大佐にお話しがございましたので夜分遅く 私を含めた中佐級の者たちで

鋭くなったのを彼は見逃さなかった。 早川の口から、合意案という言葉が出た瞬間、 楓の目つきが一瞬

そう我々は判断したのです。これがその仮合意案です」 も危険であり、よって我々だけでも意見を纏めておく必要がある、 「勝手ではありましたが、これ以上議論が長引くようではあまりに

持っていた書類を、早川は楓に手渡す。

何も言わずに書類を読む楓に、彼は続けた。

の会合で大佐の発案として提案していただけませんでしょうか?」 大佐がその案にご賛同いただけるのでしたら、 よろしければ明日

「......フム、大筋は分かりました」

ては

ただし、と楓は言った。

れば今後は、ぜひ私も呼んでもらいたいですね」 今更とやかくは言いませんが、こういった話し合いをするのであ

要望を行ったのだが、 仲間外れにされたのかと思った楓は、 特に含むものはなく

の大佐のあの様子を見ていますと、 ような状態では その件につ いては、 申し訳ございませんでした。 とてもお呼びすることができる か

れていることに気づく。 早川がそこまで言っ て 楓は自分が早川を責めていると勘違い さ

ね っても構いませんか?」 は了解しました。 で.....とまあそれは置いておきまして、この仮合意案の件について ちょっと寂しかったなぁ~とか、そんなどうでもいいことなん ああすいません! それで、 仮に私が提案するとして、若干内容を弄 責めているとかそんなんでは なくて で す

れは我々の合意案にすぎませんし、 「それについては、おそらく問題は無いかと思います。 大佐のご意見もありましょう」 あくまでそ

フムン、と楓は少し考え、

ど気になる点はありましたが明日は概ね、 しましょう。それで中佐、 分かりま じた。 私の考えと大体は同じでし 他には何か?」 この合意案通り私が提案 たし、

ですので、今日はこれで失礼いたします」 「ありがとうございます、大佐。いえ、ご用があっ たのはこれでけ

わかりました、 御苦労さま。 ではお休みなさい、 中佐

お休みなさい、 大佐」

静かに艦長室のドアは閉まり、 再び艦長室前の廊下 から人気は消

合意案、 ねえ

渡されたその書類を、

ったのは信頼されていないから、もしくは女性だからと甘く見られ はまだまだ努力が足りないようだというのが分かった。 呼ばれ たかったというのは本当のことだ。 こういったものの話し合いがもたれていたのなら、 だから会合には呼ばれなかったのだ。 俺はパラパラとめくる。 しかし今回のことで、 誘ってもらい やはり俺

ばならないだろう。 るだろう。 そうすれば、 自然に俺にも声がかかるようにな

しかしまあ.....、

動に身を委ねながら俺は深い眠りに落ちていった。 やっぱりあの映像見た後だと、考えることは皆一緒、てか」 発電のために今も動く機関から、心地よい程度に伝わってくる振 一通り目を通した俺は、その書類を執務机の上に置き布団に潜る。

いう憤怒の気持ちがありありと表われている。 「なんですと!?」 ぱり止めておいた方がよかったかなぁ。 その他数人も渡井中尉と同じことを言いたいようだった。 これらの発端となったのは、 渡井中尉の声が会議室に響き渡った。 俺のある提案が原因のようだ.. その表情は納得できないと

73

第一章(第四節・『弱き艦長』(後書き)

このページは戯れ言だから、まず落ちついて見て欲しい。 ・、)やぁ。 ようこそ後書きという言い訳の空間へ。

ſΪ うん、 仏の顔も三度って言うしね、 「また更新遅滞」なんだ。済まない。 謝って許してくれと言うつもりはな

そう思ってこのコピペを使用したんだ。 い「苛立ち」みたいなものを感じてくれたと思う。 殺伐としたネットの中で、そういう気持ちを忘れないで欲しい、 でも、このページを見たとき、君は、 きっと言葉では言い表せな

じゃあ、 今後の展開に対しての注文を聞こうか。

h はい、 前回の一月更新以来、 皆様お久しぶりでございます。 約4ヶ月ぶりですね.....申し訳ございませ 陸奥です。

関係無い話ですね、 5年までを一日ずつ書こうとすると、 ません。しかも中身が薄い気が.....ちなみに1941年から194 何者でもないでしょう。 ここまで時間がかかったのはひとえに、私の作文力が低 すいません。 実際、話の中では一日ほどしか進んでおり 全話合計1826話..... い以

理由は皆様のご想像にお任せしますが。 さて、 実はこれからも数日ごとくらいしか話が進まない予定です。

改》をご覧になってくれることを願いつつ、この辺りで失礼させて いただきます。では、今回は短めですがこれからも皆様が《戦艦越後物語・

「.....朝、かぁ.....」

の時計は教え 窓から差し込むオレ ていた。 時間は5時の少し前を指し ンジ色の光 それが日の出 ている。 の光だと、 枕元

もなにもないのだが、 .. という前に自分が指示すべき人員がいな 間は各指揮官 一応、最低 の判断に委ねられているので、 でも7時には起きることになっているが、起床する とりあえず起きることにする。 いのだからちょうどい ちょうどいい頃合い...

ら第一種軍装に着替えるのだが.....これがどうにもやりづらい。 コップ一杯分の水ですませた後、 『越後』では現在、節水命令が下されているため洗顔と歯磨きは 寝間着代わりに使っている浴衣か

切ろうかな。 最後に軍帽をかぶって終わり。 を履き、革製手袋をはめ、 ベルトを締め、紺のジャケットを羽織って前のホックを閉じ、 りというかプライドというか.....もう着たら負け、という感じだ。 ではなく晒を使っているという点が大半を占めている。 未だに女の体というものに慣れていないのと、下着に女物の下 沸々とわき上がる不満や文句に眉を寄せつつ、俺は服装を整える。 今でこそ女の体だけど、 いかという意識が俺の中にはあり、そもそも着たくなんかない。 いわゆるブラジャーとかを着ないのかというと、俺の 俺は男だ。 もし着けようものなら変態じ 髪を邪魔なので一本に結う..... そのうち 何故女物の 拘

外を覗 てた どの 艦内では基本、 小物を入れ、 てみる。 準備は完了、 鏡で全体を確認して 短剣は着けない。 まだ5時は過ぎてい ほかにはポケットに八 あ、 ない.... ホックかけ間違え 少し ン 窓から カチな

制 越後。 ままだ。 6 C の入港から一夜が明けたわけだが、 m が 1 山城 · 2 門、 に至っては全火器をこちらに指向してい 1 5 C m 7 門、 1 ż 未だあちらは厳 m が 4門だった ් ද 体

け か、 機銃は忘れた。

られたものだ。 改めて見ると、 かなりおっ かないなぁ。 よく昨日は平気で寝

時計を見ると、 ちょうど針が5時を指した.....そろそろ行く

が嫌なら他の士官たちと同様、士官寝室に寝泊まりすればいい..... ಠ್ಠ 弁してもらいたかったのでいろいろと理由をこじつけた訳だ。 まっていたわけだ.....どうしてこうなった。 そう思うだろう、俺もそう思った。 だがいつの間にかこうなっ 艦長ではないこともあって、俺は士官室で食事を取ることにして 部屋を出て士官室へ向かう。 本当は艦長室で一人黙々と食べるそうだが、ちょっとそれは勘 艦長室を使ってはいるも の の正式 てし

あった。 まず、 今後の事は忘れて俺は暢気に朝食のメニューを夢想するので 今日の朝食は何だろうか.....。 欠伸を噛み殺しながらひと

け持っている部署から報告する。 その場ではまず、今朝までに新たに分かったことを各々の臨時に受 さて、 朝飯を済ませた後は、 士官全員が会議室へと移動した。

軍の通信を傍受した結果分かった事なのですが.....」 現在乗艦中の通信班、敵信傍受班の者達を動員し日本政府や陸海

ら発せられた。 の中でも一番重要な情報は通信科を統率している、 昨晩から今朝までのわずかな変化も逃さず各々が報告する中、 草加少佐の口か そ

厳令が敷かれた模様です」 昨夜から未明にかけ、 本艦から半径50k m以内の全都市にて

戒厳令... と言う事は、

現在本艦が停泊中の横須賀は勿論、 結構これって、 相模原、 多摩辺りまで、ということですか」 東京、 横浜、 だって、 厚木、 千葉、 館

ヤバ

い状況なんじゃないか?

戒厳令と

いう事は工員も作業を中止してるかもしれないし.....

に影響が出る可能性もあるな.....」 日本の経済は勿論だが、 『翔鶴』や『祥鳳』 その他艦艇の工期

黒石中佐が、俺の思いを代弁するかのように呟いた。

想がつきません。 るはずです。これがどのような影響を与えるかは、 「はい、また米英の大使館も何か異常が起きたことには気づい さらに 現時点で全く予 てい

が少佐に集中する。 てしまっていた。 草加少佐が言葉を切った。 が、 俺はその後の事は耳に入らず考えに没頭し 何だ、まだあるのかと、 部屋中の視線

れた模様です。呉からは戦艦『陸奥』 呉や佐世保、また支那戦線からも戦艦、 が 空母に回航命令が発令さ

ころか、 練にどれだけの影響が出るんだ……歴史をいい方向へ持ってい (なんてこった.....竣工が遅れたりなんかしたら、 むしろ悪化させてるじゃないか!) 航空隊や艦 の訓

有明湾から回航途中と思われる『伊勢』 ` \Box 日向。 な

日本海軍のほぼ全戦力が集結中という事か

触して戒厳令を解いてもらわないと..... にした案を皆に提案して『越後』を固め、 (もう一刻の猶予もない。 昨夜、早川中佐達から上申された案を基 一刻も早く日本政府に接

てすらいない。 まだ、遅くはない。 大佐、 昨晩お話しした案を 全てが終わったわけではない 始まっ

、俺の打てる手は、これだけしかない.....!)

大佐、天霧大佐!」

「は、はい!?」

しまった、 考えに集中してて話を聞 いてなかった!

「えー....と」

いつの間にか、周りの視線が俺に集中していた。

と、とりあえず.....、

みた私案があります。 た中佐級合意案を基に、今後の『越後』が取る道を私なりに考えて 早川中佐を始めとする中佐階級の方々から上申され お目通し願いたい」

刷ったのだ...... おかげで、 作成しなければならないという事に思い至った俺は、 佐から順に一部ずつ回してもらう。 昨日、 に備え付けてあったPCで文章を起こし、 外面は平静を取り繕いながら事前に刷っておいた書類を、 寝たのは午前2時を回っていたと思う。 艦長室にあった印刷機で 布団に潜った後に文書を 大急ぎで室内 早川 中

..... なんですと!?」

渡井中尉の声が会議室に響き渡った。

年下なんですけれどもね? ようだ.....特に、 予想はしていたもののやはり、俺の案はなかなか受け入れがたい 彼をはじめとする若い連中には。 いせ、 俺の方が

その内容の幾つかを、 楓が早川から受け取った合意案を基とした案 具体的な例として挙げると...

- 9 越後。 は日本政府と速やかに連絡体制を確立。
- 2 7 越後。 は日本政府と交渉し、 自らの生存権を確保する。
- るよう日本政府と交渉する。 『越後』は現在乗艦中の乗員を、 帰順後も引き続き乗艦出来
- を求める。 2、『越後』 は日本政府と交渉するに当たり、 以下の条件の履行
- しもしてはならない。 日本政府は『 越後。 と交渉中、 同艦に対していかなる手出
- 0 名まで監視の兵を駐在させることを可とす。 2 日本政府は『越後』 と交渉中、 同艦に対して指揮官を含め
- えぬよう努める。 『越後』 は日本政府と交渉中、 可能な限り相手に刺激を与

- 3 日本政府に公開する。 越後。 『越後』は日本政府との交渉成立後、 は日本政府との交渉成立後、 大日本帝国に帰順する。 持てる資料のすべてを
- られた場合などの例外を除いて第三者に漏洩してはならない。 1、日本政府は『越後』 から入手した資料を、 事前に取り
- 結への道を模索、 『越後』は日本政府に帰順後、戦争回避、大陸戦線の早期終 和平へ向けて行動する。
- 難と判断した場合、日本政府と協同し戦災者の削減に努める。 1、『越後』は戦争の回避、ないし早期の終戦を図ることが困
- び現在継続中の大陸戦線の早期終結、 るよう行動する。 2 日本政府は『越後』の帰順後、太平洋戦線の勃発回避、 出来れば本年度中に終結でき 及
- 5 横須賀より脱出する。白兵戦を除き交戦は極力避けるものとする。 横須賀を脱出。 『越後』は日本政府が攻撃してきた場合、 『越後』は万一、日本政府との交渉が決裂した場合、 欧米を目指し戦争の回避、ないし早期の終戦を図る。 全ての交渉を中断し
- 艦内に注水、 1、『越後』は横須賀脱出が困難な場合は、 また弾火薬庫に点火し自沈を図る。 乗員脱出後速やかに
- 6 『越後』 資料室を開放する。 に乗艦中の全乗員に対し、 先の資料映像を公開すると

以上、6項目他を骨子としたものだ。

戦を図るというのは楓の考えだ。その場合は日本やドイツの弱点を 詳細に教えることで、枢軸側を短期間にかつ徹底的に痛めつけるこ たならそれだけでも数万人の人名が助かる。 とになるが、それでも日本、 交渉が決裂した場合は交戦せずに脱出し、欧米を目指して早期の終 基本的に日本政府に帰順する方向の考えは合意案どおりなのだが、 ドイツに対する無差別爆撃を回避でき

占拠されてしまった場合、 脱出出来ない際に自沈するのは、 艦内にある幾つもの未来の情報がどう使 交渉が決裂し『越後』

われ になってしまう可能性がある。それを防ぐための措置だ。 そして日本の降伏が長引き、両戦線における戦いはより悲惨なこと ミサイルなどの情報がナチスドイツに伝わってしまったらドイツ、 てしまうか分からないためだ。 万が一、 原子爆弾や超音速機

とも容易くこの選択を選ぶことができたというわけだ。 うとしているのと同じこと。 楓が本当に『越後』 しかしその実感がないために、 の艦魂だとしたらそれは、 自殺をしよ 楓はい

ているため、 上記に紹介したもの以外にも、 彼らの立場や扱いに対しても言及したりしている。 『越後』には外国人も乗艦

て最後の6項である。 の辺りで話を戻そう。 渡井中尉らが問題とするのは4項、 そし

がバラバラで仲間意識のへったくれもない。 3名は、 のない仲間となる。だが、 のだ。 楓も4項は現実的ではないと考えてはいるが、 この時代において他にはいない。未来人。というかけがえ もし仮に交渉が成功した場合、現在乗艦している5 今の状況では出身、 世界観もなにもかも 6項だけは譲れ 3 9 な

の他を吹っ飛ばす程の衝撃を与えたうえで、 その仲間意識を醸成するために楓は、 今までの世界観や価値観そ

員一致団結して歴史を変えようじゃないか』と、 込まれる。そんな悲惨な未来を防ぐために我々『越後』乗員は、 けることで艦全体の連帯感を作り出そうと考えたのだ。 『このままでは、 日本は世界を敵に回して見るも無惨な状況に 確固たる理由をつ

同時にこれは、高いリスクも孕んでいる。

悪の場合には艦内で暴動が起きてしまう事態すら考えられ 私もまだ賛成致します。 我々士官や、 妨げとなる可能性もある。 下手に知識、 主要な准士官までという少数が知るというのならば 情報を与えることが、 しかし、 それぞれの異なった意見が衝突し、 下士官、 かえって乗員たちの結束を結 兵にまで情報を公開する るのだ。

えては、 り返しの というの ただでさえ寄せ集めの乗員たちが、 つかない事態に陥る可能性もあると思いますがッ しし くら何でもやりすぎです! 各々で勝手に行動し取 兵達に余計な情報を与

間人が大半なのだ。 兵は全体で3 200人ほど 渡井中尉たちの懸念はまさにここにある。 しか『越後』には乗っていない。 ,000人を超えている。 残りの約2 士官などのまとめ役 それに対して下士官、 ,000人は民

留める術はない。 しまうだろう。 その3 ,000人ほどに反乱を起こされたら、 渡井中尉たちが思い描く最悪の事態だ。 数の暴力によって瞬く間に『越後』は占拠されて 士官たちにそれ

どを起こすとお思いですか?」 たち……特に、生死をも共にした自らの部下が、 渡井中尉、 あなた方の懸念も最もです。 しかし、 そう簡単に反乱な 我々の

中尉たちの表情が若干変わった。 もちろん、ハッタリである。 しかし存外にこれが効いたらし

信じられないと。 々は大なり小なり共に戦った部下がいるはずです。 私の部下は、どういう訳かこの艦に そう中尉は仰る訳ですね」 はいません。 その部下たちを しか 他 方

「ッそ、それは.....!」

尉は『早風』 である。 超えており、 存在する。 楓以外の士官たちには、 特に黒石中佐が乗艦していた『武蔵』乗員は300人を という駆逐艦のグループ約20人の中で最上級の士官 単体のグループでは最大の規模を誇っている。 それぞれ部下が数人から数百人の規模 渡井中 で

間たちを信じられ **(**) は他艦の乗員たちのことだった。 それぞれが共に戦い、共に傷つい ない訳では、 もちろんない。 た戦友だ。 中尉が心 渡井中尉もそん 配してい な

実を言うと、 見知らぬ彼らをいきなり信じろとい 楓としても信じているという訳ではない。 われても、 無理というものだ。

しながら、 今こ の状況で信じる信じない の選択をする自由は、

彼……いや、 という大仕事を成し遂げるために楓は、 彼女にはない。 自らの居場所をつくり、 自身の良心の範囲内で 歴史を変える

使おうとしていた。 場合によってはそれ以上の事も 使える手段なら使える限 1)

だかもしれない、 考えが、 ことだったのだ。 楓に今のところ、 自身の案で『越後』を固め、 落ち着いて考えれば他にもっといい考えも浮かん だが時間と状況はそれを許さなかった。 味方はいない。 焦った彼女が出し 日本政府に交渉を申し入れる た中で最善

めていた外国人。 その沈黙を破ったのは、 楓と渡井、二人がにらみ合い部屋を沈黙が支配する。 まあ、そこら辺にしておいてはどうかね。 今まで会議に参加することなく、 渡井中尉?」 ただ眺

おけるアメリカ系グループの最上位の士官でもある。 元々はアメリカ海軍第七艦隊司令部勤務の少佐であり、 流暢な日本語で話す外国人の名は、マイケル・リチャ 『越後』に

見据えた。 いったん渡井から視線を外したリチャードソンは、真っ直ぐ楓を

答え如何で、今後の我々アメリカ軍人の身の振り方が決まると思っ てください」 「アマギリ大佐、 一つ確認したい事があります。 この質問に対する

「……何でしょうか」

する中、 そう言われては警戒せざるを得ない。 楓はリチャードソンの質問を待つ。 周囲の士官たちが身を固く

ますか?」 あなたは、 ニッポンを第二次大戦における勝者にする考えがあ

率直な自分の意見をぶつけるつもりで。 楓は、勝者、 軽く息を吐き言葉をつづけた。 と一口に言われてもいろいろと考え方がある 下手に考えることはせず、

純粋に相手を降伏させたものを勝者とする考え方もあるし、

です」 勝者が、 な条件で戦を終わらせた方を勝者とする考えもある。 今私が言った考え方に基づくものならば..... 答えは、 あなたが言う 0

フ ム。 なるほど、 よくわかりました」

放った。 リチャ ードソンは、 なにかを心得たかのように微笑み、 こう言い

デ大佐の指揮下に入ることを、 「我々在日米軍所属の軍人は、 約束いたしましょう」 戦争終結のその日までアマギリカエ

「.....は?」

ってもいいから、 ろうか?正直、 その答えに、楓は驚く。今の答えの果たしてどこが良かったのだ さっさとステイツに帰れといった感じだった。 楓の心情としては『越後』の事や未来の情報を喋

帰ろうとするだろう、くらいしか考えていなかった。それがまさか、 想定外にも程がある。 一番最初に自分の提案に賛意を示したのが、そのアメリカ人なのだ。 今の時代、アメリカ人が『越後』にいても敵対してさっさと国に

言をするなどと、決して見逃せる問題ではありませんぞ!」 は愛国心というものがないのかッ! 貴樣! 混乱する楓をよそに、 アメリカ国民でありながら敵対国に組するとは、 渡井が猛然とリチャードソンに 大佐も日本の敗北を認 食いかかる。 貴様に める発

すれば、 は一言も言ってい 考え違いを一つしているようだ。アマギリ大佐は日本が敗北すると 名誉ある勝利を手にすることが出来る。それにワタライ中尉、 ちろんニッポンが善戦する分、 の数は増すだろう......しかし、私の考えが正しければ合衆国は必ず 激昂する渡井に対してリチャードソンは涼しげに答える。 私にも愛国心はあるとも。だが大佐のプランに沿って行動 本大戦における数々の悲劇が回避される可能性が高い。 ない、 その意味をもう一度考え直してみたらどう 太平洋戦域における合衆国の戦死者 君は も

何だとす貴様.....ッ」

立ち上がろうとするが、 それだけの言葉で納得する渡井達ではない。 さらに数人の若手が

といった問題ではないだろう! 諸君、天霧大佐の案に対しリチャ 今、議論すべきは、どちらが勝利するとか、 ドソン少佐、渡井中尉の他に意見のある者は?」 愛国心がどうの

を募るが誰もなにも言わない。 早川がその流れを断ち切った。 強引に議論を元に戻した後、 意見

では、 渡井中尉の意見に賛同するものは?」

渡井中尉他数人の尉官が立ち上がる、 が過半数には程遠い。

「では、他に良案があるものは?」

会議室を見まわすが、意見のある者は出てこない。

式に本艦の代表とすべきだと本職は考えるが、どうか?」 の大半の者が立ち上がった.....その数は余裕で過半数を超している。 賛成多数で、天霧大佐の意見を採用とする。 ガタガタと椅子の音を鳴らして、中佐階級の者たちは勿論、 では、天霧大佐発案の意見に賛同の者は?」 なお、天霧大佐を正

今度は大多数の拍手が鳴り渡った。

くお願いします」 そういうわけで、 大佐。 今後とも本艦の代表として、 よろし

「は、はぁ.....ええ!?」

つにまとまったのだった。 かくして、『越後』の士官たちは一部にしこりを残したものの、

その艦のちょうど真ん中あたりに、一人の女性が立っていた。 を睨むように砲門を向ける一隻の軍艦

る ち気そうな顔つきに、一本にまとめられた長い髪。 彼女の視線にはどこか苛立ちが込められているようにも感じられ その視線の先にあるものは、 この艦のあらゆる火器が指向して

いる艦、『越後』。

そぐわない外見をした三人の少女が姿を現した。 そんな彼女の傍らに突然、 まばゆい光とともにこの場にはとても

「......偵察隊、ただ今戻りました!」

そして水雷艇『鷺』 ている人物もまた、艦魂である.....。 彼女達の名は、 多摩と鷺、 、『鳩』の艦魂だ。 そして鳩という。 彼女たちが報告しようとし 軽巡洋艦『多摩』

認められたので、 が多数おり、その数は1000人を超すと思われます。 の中には男女問わず我々の姿が見えていると思われる者が数人ほど れる者を見つけだすことはできませんでした。 「報告します。目標艦々内を捜索しましたが、 報告させていただきます」 艦内には人間の女性 目標艦の艦魂と思わ また、

「続けろ」

· 八ツ!

多摩が1-へずつ外見などの特徴を報告する。 そして最後の

:

現在臨時に、『越後』の代表となっている者です」 最後は、 海軍大佐の階級章を付けた若い女です。 名は、 天霧楓。

以上で報告を終わります、と多摩は締めくくった。

少しの間、場に静寂が下りる。

゙.....どこに、隠れていやがるんだか」

現在、入り込める場所は徹底的に捜索しましたが 足跡すら見

当たりません」

彼女は軽くため息をつく。

゙わかった、お前らは艦に戻れ」

『八ツ!』

隅で捉えながら、 素早く敬礼をし、 彼女は『越後』を睨みつける。 光に包まれて消える三人。 その残光を視界の片

手間をかけさせやがっ て.....見つけたらただじゃ すまさねぇ

消え去った。 その言葉とともに彼女.....戦艦『榛名』 の艦魂、 榛名も甲板から

「うほぅ!?」

ゾゾッと寒気が.....なんかこう、嫌な予感がする、 感しかしないんだが。 会議から戻って寝室でまったりしていた俺だが、 というか嫌な予 背筋にいきなり

よく似ている.....そんな訳ないな、多分気のせいだろう。 例えるなら、暴力的な幼馴染が襲いかかってくるあの時の前兆に

第一章の第五節・『楓の提案』(後書き)

登場人物紹介

《早川秀次》

役職:帝国海軍軍人、中佐

出身:新潟県長岡市

身長:177cm

年齢:38歳

性別:男性

前役職:戦艦『土佐』副長

家族構成:父、母、 義理父、 義理母、 妻、息子3人、 娘2人

好きな物:白米・日本の城郭・戦車・軍艦・味噌汁・ 根拠のある

非戦派

嫌いな物:根拠のない非戦派・精神主義・全体主義・特攻・青汁

をサポー トする『越後』 日本に勝ち目はない、との考えをもっており主に副長的立場から楓 異なる歴史を辿った世界から来た人物の一人。 の第2の長。 早期講和ない限り

主義者ではあるが、 急処置に対して、 として楓の意見とは真っ向から対立することもしばしば。 !の保全対策を日々模索している。 生粋のエリートではあるが非常に柔軟な思考の持ち主であり、 我流ながらもよく勉強しており防御指揮官として 同時に航空機の脅威も認識 しており被弾時の応 大艦巨砲

《横川喜勝》

役職:帝国海軍軍人、航海少佐

出身:千葉県浦安市

身長:181cm

年齢:35歳

性別:男性

前役職:戦艦『天城』航海科所属

家族構成:妻、息子、娘2人

好きな物:家族・酒・ 煙草・軍艦・美味い料理・海

いな物:真面目すぎるやつ・変に理屈っぽいやつ・ 間スパイ 諜イ

共に戦っていた。 考の持ち主。 あっても何時までも引き摺らずスパッと切り替えることが出来る思 であり、ここぞ、 同じく別の歴史からとんできた人間であり、実は三人は同じ艦隊で を打つには遅すぎる時期だと認識している。 気楽な性格をしており、 という時には非常に頼りになる存在である。 現場一筋で叩き上げられきた経験豊富な航海士官 開戦にはやはり反対しているがもはや手 早川中佐や菜野大尉と 何か

《草加拓海》

役職:帝国海軍軍人、通信少佐

出身:岩手県紫波町

身長:176cm

年齢:32歳

性別:男性

前役職:第一航空艦隊通信参謀

家族構成:父・母・姉

好きな物:バナナ・理想の未来・日本・海

嫌いな物:誇りを失った未来の日本・泳ぎ

日本という国に誇りを持っており日本の行く末を案じ日々案じて 以前は一航艦の通信参謀という重要なポストについており、

えるというこれまた重要なポストについている。 今のところでていない。 いるのかわからないときがあるが、某漫画と違い同士が多数いるた そして諸々の理由などから核爆弾を作ろうなどという暴挙には 転移後は通信のトップとして、 様々な情報を収集し楓に伝 たまに何を考えて

お久しぶりです~、陸奥でございます。

えるようになるのが、はたしていつになることやら。 今回も四ヶ月空いてしまった.....月二回更新の目標が安定して行

近くかかってるし.....携帯だと書きにくくて進まないものでして。 その後も暫くまともにネットへ繋げられる環境じゃないみたいだし、 いつ終わるんだろう.....。 就職先に受かっても四月からさらに四ヶ月近く更新無理っぽいし、 暇を作り出す余裕がない.....。しかもPCは壊れて修理に二ヶ月 やっぱり高校三年は忙しいですね、 PCに触る暇がないです。

骨組みは出来てるんで投げ出すことはないです。 話が浮かんだり.....そりゃ進まんわな。 書こうとしたら細かい設定ばかりが頭に浮かんだり、 細部はまだ詰めてませんが開戦から終戦、 というか、本編を そして現代まで まだまだ先の **ത**

いです。 済み)、 これからの予定としては、 以降も二回を目標とし、 九月二回更新(もう一話もすでに完成 三月は三~四話を更新しておきた

狸の皮算用とならないよう、 この後となると、 本気で更新困難となりますから..... 鋭意努力します) (捕らぬ

では、 次回の 《戦艦越後物語》 もどうぞよろしくお願い します!

とった。 全ての士官室、 会議が終わり悪寒を感じてから数時間後、 兵員室に設置してある艦内放送機へ繋がるマイクを 楓は艦長室から直接、

も過言ではない。 この放送によって、 一回大きく深呼吸.....そしてカチリ、 しかし、もう楓にやめるという考えは欠片もない。 これからの『越後』の幾末が決まると言って と送信ボタンを押した。

艦の指揮を執っている海軍大佐、天霧楓です。 状を把握している方はほぼいないと思います。 《現在『越後』に乗艦中の皆さん、 こんにちは。 正直皆さんの中で現 私は現在、 臨時に

それらを踏まえたうえで

「何だ?」

「女の声だぞ……」

「おい、静かにしろ!聞こえないだろうが!」

た居住区の水兵たちが色めき立つ。 昼飯時のいきなりの艦内放送に、昼食を食べながら雑談に興じて

えなくなってしまった。 班長が素早く静止するが、 暫くざわめきは止まず放送の声が聞こ

てしまってからだ 実力行使によって再びざわめきが止んだのは、 かなり時間が経っ

ご了承願いたい。 えきしょ.....いえ、 ょう。また、この後1400より各居住区画に備え付けられてある 放します。 れはおそらく、 なかなか信じられないかもしれませんが、 よって明日より三日間の間、中甲板第一、 資料室からの資料の持ち出しは禁ずるので、 殆どの乗員に関係のある映像のはずです。 自分の目で見て、聞いた方がより実感できるでし 受像機を通じてある記憶映像を放映します。 これは実際に起こった 第二資料室を開 あらかじめ 皆さんに こ

.....正しくはこれから起こる出来事です》

そこで、放送は終わる。

た。 乗員たちの大半は訳が解らぬまま、 まずはその受像機を探し始め

在とは言い難く、 昭和前期の人々にとって受像機、 その存在すら知らない者も多かった。 現代で言うテレビは一般的な存

だ。 発明した後は1929年のイギリスでの実験放送、1935年のド 年にアメリカでやっと白黒放送を開始した程度しか普及していなの イツでの定期試験放送によるベルリンオリンピック中継、1941 なにせ1926年に高柳健次郎氏が初めて、ブラウン管テレビを

日本初のドラマが実験放送されたくらいで、『越後』の乗員の大半 も戦後生まれのもの以外は全くと言っていいほど知らなかった。 日本では1939年にNHKで公開実験が行われ、 1940年に

人だかりが出来た。 それでも放映が始まると流石に分かり、 画面の前にはものすごい

が進むにつれその表情は暗くなっていく。 多くが明るい顔で興味津々といった感じだが、 映像が始まり、

映像が終わるころには全員が俯いていた。

暗くしていく。 らまた、 いく様子を見て表情が和らいでいくが.....21世紀に入った辺りか それでも、生き残った者たちの手によって日本が着々と復活し 日本を取り巻く状況は悪くなっていっていることに表情を

たちに責任があるのではないか? みとする技術力も海外に流出していく状況に兵達はただただ申し訳 なさでいっぱいだった。こうなってしまったのも元はと言えば自分 政治が混乱し、 周囲の発展していく国々に追い抜 そう思ってしまったのだ。 がれ、 日本の

映像が終わってしばらくの間、 誰もが何も喋ることが出来なかっ

た、だが.....。

「..... このままで、いいのか?」

という上等飛行兵だ。 を投げつけ、瞼の上を二針縫わせる事態になっ 搭乗員居住区の一室でそう言い放ったのは、 てしまった桐本真理 先日小五郎に空き缶

「良いのかって、なにが」

郎が聞き返す。 傍らではその被害者たる、 瞼の上に巻かれた包帯が痛々し 61 小五

まま消化されるのを待つだけでいいのか?」 ちは今、未来を知った.....それでいて何もせずに、 「このまま、私たちが何もせずに けて しし いのかってことだよ。 ただ歴史がこの 私た

「そりゃ俺だってそう思うさ。でも、 何をすればい 61 んだよ.....」

決まってるだろ。 自分たちで変えるしかない!」

真理の意見に、 周りにいる飛行兵達も次々と賛意を示す。

:

も無駄死にするだけだ」 心意気は立派だが、 だからと言って貴様らだけで行動して

五郎たちに、 中佐の階級章を付けた男性士官が姿を現した。 中佐は今はいい、と言って続ける。 慌てて敬礼する Ŋ١

か?」 けだ。 なし。 員だけがいたところで機体がなければ戦局が劇的に変わるわけでも 「艦には今、貴様たちも含めて300人近くの搭乗員いるが、 たとえ機体があっても米の物量にやがて、押しつぶされるだ 無駄死にだと分かっていてもなお、 貴様らは動こうとするの

たっ 中佐は部屋にいる飛行兵たちに非情な言葉を投げかける。 た一握りの搭乗員が足掻いても、 結局は無駄死にするしかな

「動きます」

.....ほう?」

沈黙を破り、真理が言った。

後で後悔する道を私は選びます!」 例え無駄死にだとしても、 何もやらないで後悔するより、 やった

それだけを真理は考えていた。 やるやらないという選択肢は最初から真理の中にはなく、

らいは命を落とさずに済むかもしれません!」 そうです! 自分たちが動くことで、もしかしたら一人、二人ぐ 真理に同調し、 周りの飛行兵達も次々と中佐に詰め寄っていく。

てでも止めたいんです!」 「自分の家族は広島にいるんです! あの原爆だけは、 体当たりし

中佐、やらせてください! お願いですッ!」

で本当に様々だ。 いくつもの戦場を駆け巡った雰囲気を醸し出している歴戦の古兵ま 次々と中佐に詰め寄る飛行兵達。それらは年端もいかぬ青年から、

それらをぐるりと見渡し、 彼も硬い表情を崩した。

......実のところ、俺も貴様たちと同じ考えを持っていたよ」

「じゃあ.....ッ!」

顔を輝かせる彼らに、中佐は頷く。

伝えておこう」 貴様たちの想いはしっかりと受け取った。 俺が責任を持って上へ

『ッお願いします!』

い尽くした。 各所で沸き上がった声は、 やがて大きな艦内を余すところなく覆

それがより良い未来に続くことを信じて、と.....。 犠牲になる人々を一人でも多く、そして自分たちの家族を救おう、 たとえ日本が負けてもいい、戦争が長期化してもい ίĺ

ったのだ。 記録を見終えたその時から、 多くの『越後』 乗員の目的は一つに

放送が終了してから暫くして、 楓は椅子に座ったまま執務机の傍

ている。 付けられているPCは、 らにあるPCを操作した。 分厚い装甲の下にある電子演算室に繋がっ このPCを含めた『越後』 の艦内に備え

それらに目をくれず楓はただ一点を見つめていた。 文字の群れが現れた。 ほどなく机の上に置かれているディスプレイの液晶画面に細かな それらの中には多数の名前が並んでいるが、

駒場照永 2 0 陸軍少佐 第七師団所属 樺太庁真岡支庁真岡町

28

駒場翔の曾祖父の名が、 そこにあっ た。

勝手に画面の電源が入ったあの時、 表示されたのは駒場翔の曾祖

父、照永に関する情報だった。

月日に、 の話に出てきたり、 今まで、翔が曾祖父について知っていることは、 名前だけ。 お盆の墓参りの時に墓石の横に書いてある没年 時々曾祖母の昔

しかし今ならば生きているのだ。 駒場翔が見たことがある曾祖父の存在は物言わぬ遺影の み

曾祖母とその生涯を共にしてもらいたい。 か嬉しそうな顔をしていた曾祖母とともに.....。 会ってみたい。 なんとかしてこの戦争を生き抜いてもらって、 駒場照永を語る時、

溢れ出てくるばかりだった。 延ばそうと決意したのだ。 救うために周りを巻き込んで歴史を変えようとしているのだっ 御免だと思っていた楓はこの時、どうにかして曾祖父を助け、 一度そう思ってしまった後は、その想いは止まることを知らずに つまり楓は、 今まで、 戦争に参加するなどさらさら 自分の曾祖父たった一人を 生き

えば将来の自分が楽をしたいからでもある。 そ使うべきだ、 越後』に大量に積まれている資料などは戦後の発展のためにこ とも考えてはいるものの、それも結論を言ってしま

策を弄したりと他の人々の為に動いたりする。 その大半が゛日本゛という国を襲う敵や運命から救おうと戦ったり、 しまえば私利私欲だ。 楓が知っているこういった過去に遡ったという物語の主人公は しかし、 楓は言って

でしまうのだから。 と、それに乗っている多数の人間、そして日本という国を巻き込ん 曾祖父一人を生かすために、強大な戦力を発揮可能の戦艦『

ば明日から本格的に活動を行うと決した以上、 ことは出来ない。 自分は間違っていると、 乗員に真実を告げた後、暴動の兆候が現れなけれ 楓は自覚している。 だがもはや引き返す いまさら引き返せな

対に生き残って曾祖父ちゃんに会って見せる! ない。俺は、間違ったまま突き進んでやる、 間違いもそれを貫き通せば、やがてそれが正解になるかも ああそうさ、 自分は間違っている。 だがそれがどうした。 そしてこの戦争を絶

雰囲気があふれていた。 何故か女らしさのかけらもなく、 決意の表情を浮かべるその顔は、 まるで男と錯覚してしまいそうな 確かに女性のものなのだが

それが、 天霧楓こと駒場翔が覚悟を決めた瞬間だった。

るためには、 ようにあの敗戦を回避するかの検討を行った。 入港から

二日目の

4月9日、 再び会議室に集まり乗員の結束を確認した面々は、 やはり『 越後。 の力をもって直接歴史に介入するべき すなわち全乗員に情報を公開した次 その目的を成し遂げ 早速どの

だという意見が大半を占める。

がない。 う認めさせなければならないが......何故か未だに向こうからは接触 低でも女性 るには政府と日本政府と交渉を持ち、 的に接収された場合には全乗員がそのまま強制退艦になったり、 乗り組ん しかし、 でいる乗員を引き続き乗せていることが好 今の『越後』の性能を1 の乗員は退艦を余儀なくされると思われた。 0 乗員をそのまま乗艦させるよ 0%発揮するため ましいが、 それを避け には、 現在 一方

そこまでであるし、 大きいとして控えるべし、という意見が多くこれは見送られた。 こちらから接触しようにも、 短艇による人員の接触も攻撃を受ける可能性 無電では向こうが無視し てしまえば

というのは言うまでもない。 るようにと考えた末の策であり無論、 使い方を全く知らな その場合は楓を始めとする交渉団が交渉に当たるが、万が一に備え を用いて艦に切り込んでの接収を目論んだ場合に備えてだ。 で白兵戦訓練が行われることとなった。 これは帝国側が強硬な手段 結局この日は、 1 いまま殺されるよりは、少しでも自己防衛でき 000時にはこちらからの接触は諦め艦内通 そんな事態は来ない方がい 61

うするのは勿論だが実際の戦闘場所は確実に艦内通路なので、 に少しでも慣れるためという事もある。 艦内通路を使うのは甲板で訓練を行い、 向こう側を刺激 しな 場所 ょ

練に参加することとなっ 責任者とは 関銃まで含まれ はM2『ブローニング』 指導され ウスト3』 主な使用火器は大は11 の訓 た自衛隊員と約半数の士官が受けることとなった。 練は陸上自衛隊隊員を始めとする指導員指導の下、 たが、 いえ、 から小はAK・74等々、 ているが、 交渉の際に万一のこともあると主張し自主的に訓 何とか皆の足手まといとならな た。 などという艦内では使うべきではない 所詮短期間だからと問題視され 0 m 陸戦訓 M個人携帯対戦車弾 ® 練なぞ受けていないために厳 非常に雑多にわたり、 よう、 パ ンツァ そしてボ なかった 楓は最高 乗り組

表面上は)直向きな姿に段々と壁も薄くなっていった。 もあってか最初の頃は女性であるということもありとも女性軍人が 口を出さないようにと他の誰よりも熱心に訓練に励んだ。 いなかった世界の者たちの一部と壁があったが、その (少なくとも そのこと

行 を編成し、 及び実機を使っての訓練を実施。 また、 内務、 訓練対象外の将兵も各科の一部では慣れない機器の講習、 機関、 指揮権を明確にすることで有事の際の混乱の予防に努め 主計、医務各科の幹部士官達によって臨時の分隊 このために砲術、 通信、 航海、

「おい、そんなに出るな!すぐお陀仏だぞ!」

ıΣ 性が引っこむが、その時にはもう遅い。 艦内通路に怒号が飛ぶ。 死亡判定を下されてしまった。 慌てて89式小銃の 敵役が放ったBB弾が当た エアガンを構えた女

はなく、 が関係なく陸自隊員によってビシバシ鍛えられる。 訓練は階級が高かろうが低かろうが、 説明するまでもないがこの女性、 容赦なく死亡判定を下されてしまった。 駒場翔こと天霧楓である。 年が若かろうが老いていよう 無論楓も例外で \mathcal{O}

様子を見る。 一通り訓練 が終わったところで通路の脇に下がり、 他者の訓練の

リカとはいえ) る者。 どこにあったのか対戦車ロケッ 物騒な代物まで引っ張りだしてきて扱い Ļ 対物ライフルとい つ 方を学んで たへ プ

狭い通路を利用しての罠の設置方法を学んでいる者。

ずに炸薬を艦底に張り付かせるか、などの方法を学んでいる者 ここにはいないが、 船艙甲板ではどのようにして相手に気づかれ

三隻は無力化できそうな勢いである。 下手をすれば、 『越後』 自体の武装を使用しなくとも巡洋艦の二、

か シンガポー ルで『高雄』 がされたことを再現する気な

か。あの人たちは.....)

まずあり得ないだろうが。 きない悲惨な状況である.....実際にはそんなに甘くいくことなど、 破される『高雄』型.....帝国海軍としては、もはや笑うことしかで 戦わずして無力化される『長門』や『比叡』 思わずその光景を想像しかけて、 そこで楓はやめた。 、手持ちの火器で撃

「天霧大佐!」

第一号こと、洞爺誠大尉が駆け寄ってきた。 そんな風に考えている楓に、 一人の青年士官..... 先日の接触乗員

「洞爺大尉ですか、どうかしましたか」

のことです」 「瓜畑少佐がお呼びです、至急後部飛行甲板までお越し願いたい لح

るが、 び出す理由が思い当たらないと、楓は頭をひねる。しかし、 や格納庫にある機材を調査している隊の責任者を務めている人物だ。 「本田三佐! いるのなら全体の責任者として行かねばならないだろう。 通路の向こうの後ろを向いている。 なにかあったのだろうか? 瓜畑少佐は航空機整備などを専門としており、今は後部飛行甲板 応えは返ってこない。 申し訳ありませんが、 よっぽどのことがない限り自分を呼 中背の男に向かってそう告げ 一旦抜けさせてもらいます!」 呼んで

らが仕込まれている重たいジャ に飛行甲板へと急ぐのだった。 沈黙を了承と受け取り、 楓は防弾チョッキやらレプリカ手榴弾や ケッ トを着たまま、 洞爺大尉ととも

「瓜畑少佐、天霧大佐をお連れしました」

行甲板。 戦艦であるにも係わらず、 祥鳳 型軽空母以上の面積を持つ飛

溢れ返っていた。 そんな広大な『 越後。 それぞれには保護用のシー の飛行甲板ではあるが、 トが被せられて 今は大量 の物資で ζ

外部から中身を判断するのは難しかった。

ご苦労さん大尉。 大佐、 わざわざ御呼び立てして申し訳ありませ

ゅうきゅうさい。 頬に油が付くのも構わず汗を拭うのは、 悩みが多い多感な年頃なのだそうだ。 海軍少佐瓜畑咲子さんじ

組織も軍も違うため、余計ないざこざが起こらないようにするため 取られている。 に楓が勝手にやっていることであって、楓以外には命令として受け ストを作ってもらうことだ。 依頼という形をとったのは、 楓が瓜畑少佐に依頼したのは、それらの中身を確認し、 所属する 正式なり

「構いません、少佐。それで、見せたいモノとは.....?」

実物をご覧になったほうがいいでしょう」 「はい、とりあえずとんでもないモノである、 とだけ.....詳しくは

縫って行くのだった。 瓜畑に先導されながら、 楓達は飛行甲板でひしめき合う物の間

ζ 行く瓜畑さんの後を遅れないよう慌てながらついていく。 俺と洞爺大尉の二人は、 上の装備品くらい脱いで来たら良かった.....。 物で溢れ返っている飛行甲板を急ぎ足で 正直言っ

機っぽい航空機などがあるらしい。 やロードローラー、パワーショベルなんかの重機から、 甲板には、カバーの上からぱっと見で分かるもので、ブルドーザ プロペラ

瓜畑さんはそれらには目もくれず、 ひたすら奥へ奥へと進んで行

、こちらです、大佐。中へどうぞ」

やっとたどり着いたのは、やけに大きな覆い。

その覆いをめくり、 中へ入った俺は思わず声を失ってしまっ

い、一体.....何なんですかこれは?」

分かった.....なんでこれが、 の洞爺大尉にはこれが何なのかは分からないようだが、 ここにあるんだ!?

「少佐、よろしかったのですか?」

「なにがかね?」

人として会議に参加していた少尉が尋ねた。 外国人に与えられた居住区画での昼食中、 リチャー ドソンの付き

と言って」 「我々在日米軍が、 『越後』.....いえ、日本軍の指揮下に入るなど

少尉の言葉に、笑いながらリチャードソンは答える。

かるかな?」 アマギリカエデ大佐の指揮下に入る』と言ったんだ、この意味が分 少尉、私は日本の指揮下に入るとは言っていない。 あくまで、

従わない。日本政府にも、その上にも.....ということですか? かし、日本軍から我々に命令するよう彼女へ指示されてしまえば」 「そのあたりは大丈夫だ、しっかりと細部は詰めてある」アマギリ大佐からの直接の命令ではない限り、我々は指示に

行い、 く決めたのだった。 ドソンも先の問題について検討し、細かいところまで余すことな 会議の後、 外国人の処遇に対しての問題を話し合った。その場でリチャ 改めて各外国人グループのトップと楓、早川は会談を

ら食事を食べ始める。 まあまあ少尉、今から心配し過ぎても何も変わらんよ 少尉の隣にどっかりと隣に腰を落とした男性は、 苦笑いをしなが

スターリンをして『ソ連人民最大の敵』と言わしめた男、ハンス・ ルリッヒ・ 今は目の前の食事を、 ドイツ空軍の制服に身を包む彼の名は、エルンスト・ステーン。 ルーデルの恩師に当たる人物であり、 楽しもうじゃないか」 この時点ではま

第一章(第六節・『越後の切り札』(後書き)

はどうおすごしでしょうか? 就職試験も終わり、 後は結果を待つだけという今日この頃。 皆樣

進みつつあったり..... あれ? 私ですか? 航空業界を目指していたはずなのに、 落ちたらどうしようと戦々恐々の毎日で(r いつの間にやら海への道を У

立つものが、ない訳ですよ。 いえね、航空専門学校に進学しようとしていたのですがね 先

大きくきったわけです。 これ以上親に迷惑をかける訳にもいかず、進学から就職へと舵を

るでしょうからしぶとく狙っていくことにします。 まあまだ長い人生の中で、 航空に携わるチャンスはいろいろとあ

今回のお話。 つまらない私の近況はここら辺にしておいて、 皆様どうでしたか

ある理由を付けたかったのですが.....。 作者的にはいろいろと無理矢理感が否めません。 もっと説得力の

たいところです。 いったん楓からはなれて艦内の主要人物たちの活動を描写していき 楓が歴史を変える動機なんかも明かされたところで、 艦の紹介なども含めて。 ここら辺で

力ください。 ちなみに唐突ですが、ここでアンケートという名のナニカにご協

本編最後に楓達が見たもの、 それは果たして!?

Α Ė 0 0 抜かずの剣こそ平和の誇り

В Ė 4 管制塔に挨拶したい

Ś u 3)ジェントルマンがこれほど集ま

るとは壮観だ な

Ė 1 5 花火の中に突っ込むぞー

Ė A -1 8)それが今日、 我々が讃える人

の独立記念日だ!

. A -1 0 何 のために生まれた!? Α

に乗るためだー

. B -5 2) そこでB - 52が、 実際に艦船か

ら飛び立ち、 攻撃をするわけです!

)三機?

Ė -2

B 7 3 7) ジェッ ト旅客機では世界一のベス

エコー じゃ

な

١J

の

か

セラー!

・(程々に)自由枠

楽に選んでくだされば幸いです。機種が分からない人は調べてみて どうかよろしくお願いします。 展開に小さく影響はしても大きく影響するという訳ではな ください。 の 最後 に B、 とかこ、 と一文字入れるだけで十分ですの あ、ちなみにこの機体がこれからの いので気

IJ 知してますなのですよ? タがあるやつ少ないんだもの。 あと、 それにしても見事にアメリカ機ばかり..... ロシア機や欧 最近某理想郷へと引っ越そうかと思っていたりい この作品 の ベルがチラシの裏よりも低 ちなみにB737は完全に趣味です。 いことは十分承 州機で なかった

弟一章 第七節・『魔王の使徒』(前書き)

ださっている方々に、心からの感謝と謝罪をいたします。 うにはあまり自信がありませんです.....。 ての近況報告を全くしていないにもかかわらず、いまだに待ってく 前回の更新からはや一年が過ぎ去り、その間も活動報告等を通じ 《戦艦越後物語・改》久しぶりの更新となります。 ただ、無いよ

(なんで、なんでこれがここに

楓の目の前で、 静かにその場で佇んでいる巨大な。 鳥"

その"鳥"の名は

A - 10 ! J

を放つ対地攻撃機。 名を『ウォートホッグ』というアメリカ空軍において異色の存在感 フェアチャイルド А -10『サンダーボルト』 またの

ここで実物を見ることになるとは、 なるとは思ってもいなかった! 楓が一目見てみたいと願っていた機体だが.....まさかこの時代の しかも直に触れるようなことに

代に、『越後』以上に存在してはいけないモノが圧倒的な存在感を 持っていたのだ。 興奮する彼女の前には、ジェット機自体が暗中模索だったこの

一気にクールダウンさせる言葉が耳に入ってきた。 だが、 実物のA・10神を目の前にして、目を輝かせていた楓

瓜畑少佐、申し訳ないのですが.....これは一体、 傍らの洞爺大尉が、 瓜畑に尋ねた言葉に彼女はハッとする。 何なのですか?」

(そうだ、本来俺はこいつの存在なんと知っていないはず.

畑から発せられる。 頭の中で慌てふためく彼女を、さらに追い詰めるような言葉が瓜

だよ?」 「あたしも詳しくは知らないけど、どうやら大佐は知っているよう

んとか良い文句がないか必死に頭をひねるが..... そして楓を見る二人。 大丈夫、まだごまかせると判断した楓はな

ー
れ
え
....

た書類の中に、 なかなか思いつくものではない。 A -1 0 の物があったことを思い出した。 だが、 ここで回航途中に提出さ

特徴的 能という航空機だというのが印象に残っていたので、覚えていたん ですよ」 な兵装、 偶然提出された資料の中にこの機体 外観、そして致命傷に等しい損害を被っても飛行可 の 物があっ てですね。

まらないものしか思いつくことはなかった。 なんとか苦し紛れに返事を返すも、 その内容は何の変哲もない つ

るか分かんな (いい加減俺も平然と答えられるように出来ないと、 いな.....) い つボロが出

えーてん、 「なるほど、 لح そういうことですか。 いうのですか?」 それで、 この機体は、 えー

である、やはりそれの持つ、艦艇とはまた違う鉄の存在感に惹かれ持つガトリング砲を眺めながら、洞爺大尉が楓に尋ねる。大尉も漢 たのだろうか。 眼前にでんッ! と存在感を放つ、機首に備わっ すねる。 大尉も漢った七つの銃口を

「そう、 弾を搭載可能で、 等の戦闘機以上、 という機体だそうです。資料によると最大速度はP なんだそうです」 この機体は未来のアメリカ空軍が保有して しかもB・17等のアメリカの重爆以上の量の きわめて強力な対地攻撃能力を持つ未来の爆撃機 いる、 - 38やF4 Α U 0

(この時代のレシプロ戦闘機 な m前半なんだから、 いはず.....多分。 0は襲撃機なのか?) そういえばこの時代の日本木の基準でいうと 今の時点で追いつける航空機なんてほとんど : P -51でさえ最高速度が 7 0 0

機の事である。 同じく近接航空支援だ。 ちなみに襲撃機というのは、 有名なのは九九式襲撃機で、 日本陸軍で使用されてい 主な任務は た対地 Α -1 攻撃 0 ع

た。 の興味は徐々に目の前の Á 0 の機体に傾きつ つあっ

並ぶコクピッ 想像以上に大きい 1 の内部を見てテンションはどんどん上がってい G B U 8 アヴェンジャ **6** や様々 な計器が

彼女は 対に出来ないことを好き勝手にやっ 銃 口を覗い たり、 前輪格納部 ていた。 の中を見たり等々、 普段では

戦闘機以上の速度の爆撃機ねえ けど、 発動機が見当たらないね。 後ろのあれかい」 モスキー トみたい な感じ

とも注意して ころには[N 低い翼の上からエンジンを見ていた。 妙なテンションの楓を放っておき、 妙に羽の数が多いですが、 いるが。 0 S t ep] と表記されているので、それには二人 あんなので飛べるんですか 瓜畑と誠の二人はA・1 もちろん乗ってはいけないと ?

それは多いそうだ」 聞いたことがあるよ、 れているってね。 「さて、それは実際に見ないと分からないけど……そういや そいつは蒸気タービンみたいに、 ガスタービンっちゅう新型の発動機が開発さ 羽の数がそれは ぁ

「ガスタービン、ですか.....それでは、 しれないね」 もしかするとあれが?

ジンは それを搭載 スといった一部の先進国では研究用として実用化に成功しており、 リガスター ビン タービンというものはこの時代、 研究段階の代物なのだ。それでも、イタリア、ドイツやイギリ いまだ存在しない。 した航空機の初飛行も済ませているがこんな巨大なエン すなわちジェットエンジンはまだまだ発展途 主に蒸気タービンが知られ 7 お

エンジンやパルスジェットエンジンなどで、それらも出 いるような研究段階の代物が多い。 たり、 ンエンジンが使用されている。この時代はまだ、 0に搭載されているエンジンは、高バイパス比の 耐久性が低く、 燃費も悪いためまだまだ問題が山積み ター ボジェッ 力が小 ター さか ボ して -フ

しかし かも出力も大きい等々、 0に搭載している物は、 非常に優れた物だ. 低燃費であ ij そしてなによ 耐久性もよ

だから。 ıΣ 用エンジンを作る資料としても、 れている船舶用エンジンで、このことからTF34は将来的に船舶 のがある。 と言わざるをえな TF34は研究段階を既に抜けた実用段階 さらにこのTF34の派生型として、 これは ίį 『はやぶさ』型ミサイル艇の機関としても採用さ なにせ数々の初期不良、 大変適した物なのだ。 切物 故障を解決済みなの L 5 0 こ れ 0というも は大きい

態であるとは心強いなあ.....」 そんな研究中のものを装備している機体が、 こんなに完成し た状

あるがこれほど頼もしい機体はないだろう。 誠は胸を高鳴らせた。 甲板上に係止されている。 実は Α -1 0は1機だけではない、 もし楓が話した通りなら、 飛行甲板に並ぶA・1 全機合わせて だが たった11機では 0の列線を眺め、 1 1 機 が

しかしま.....使いこなせるかどうかとなるとまた別問題だがね

... そうです ね

完全に揃って初めて、 げればきりがない。 導なども要る。 それを造る工場や、 飛ばす人間だけではなく整備士や補給部品も必要で、さらに 物があっても飛ばす人間がいなければ宝の持ち腐れ 他にも必要なものは多々あるが、これらをすべて挙 たくさんの表からはなかなか見えにくい部分が 訓練や整備を行う場所も必要になり、 航空機は稼動できる。 管制や誘 いえば 61

ことは、 け。 では役には立たない。 訓練もままならないかもしれない..... 用に耐えれるものを作るには数年から十数年かかるだろう。 も望めない。 今あるのは、 もしかしたら場所も加わるかも知れないが、 に搭載され 少なくともこれ 『越後』 限られた数の操縦士に整備士、 てい の技術をすべて開示したとしても、日本が実 る部品の数次第では飛行の回数も限られ、 から数年間は補給なし、 L١ くら機体 そして部品に機体だ 部品 という事になる。 が強力でも、 の供給はとて という これ

まあそこら辺の面倒なことは、 ある " つ てことだからね」 後々考えれば l1 さ。 重要なのは

公開して見掛け倒しの切り札にすればすればいいと?」 つまりこれらの機体を、 政府側にカタログスペック。 だけ "

の瞬間腹を抱えて爆笑した。 その言葉に、 瓜畑は目を丸くして誠の顔をまじまじと見つめ、 次

つかなかったよ!」 「アッハッハッハッハ! そういう手もあったねぇ、 いやいや気が

方もあるね.....大佐! どう思います、洞爺の案は?」 体を整備して飛ばすことだけ考えていたよ.....そうか、そんな使い 「はーまったく、若い頭には勝てないね。 そう言うつもりでおっしゃったんじゃないんです 私は整備屋だからただ機 か少佐!?」

ると思いますよ。 ませんからね、A・10は」 スペックだけなら、現行の機体ではどのような機体も太刀打ちでき^? え、 全力を発揮できるかどうかはともかく、 ああ、とてもいい案で、検討する価値は十分に カタログ あ

音は入っていたので何とか答えを楓は返す。 アヴェンジャーに夢中で全然話を聞いていなかったが、 一応耳に

りますか?」 そうだ、大佐。 と、その時。 瓜畑が何かを思い出したのか、 他にもいくつか航空機があるのですが、 パンと手を鳴らした。 ご覧にな

えーと、 他にも.....? 確か.....」 と訝しがる楓に、 瓜畑はこう返した。

F・2とF・22ってやつですね。

- 2とF - 22を見たときの楓のテンションは、A/Bを焚いた戦その後の事については、また別の機会に譲ることにする。ただF のごとくぶっ飛んでいたということは、 言うまでもない。

り上げんと口を開く。 た伝令が戻ってきた途端にピタリと声が止み、 に周りを囲み侃々諤々の議論を行っていた。 そこへ艦橋に走ってい 一言一句たりとも聞き逃すまいと耳をそば立てる中、 薄暗い部屋の中では、 十数人の男たちが横須賀周辺の海図を中心 全員が伝令の報告を 伝令が声を張

認む!」 「 報告! 一一〇〇時に至るも、 『当該艦』 に新たな動きはなしと

それは今までと全く変わりのない報告でしかなかったからだ。 その報告に室内には、 『当該艦』に対して、 安堵とも落胆ともとれるため息がもれ 鎮守府からの動きもない のかり

に問うた。 若干の間をおき、 重々しい口調で、 この中で最上位の将官が伝令

くありません!」 その答えを聞き男たちの間には、 未だ陸戦隊が臨検を行う様子も、 焦燥とも疑念ともつかない雰囲 軍使を派遣する様子も、 全

気が漂う。

然の介入を図った東京憲兵隊と、それを断固阻止すべしとの軍令部 に政府内では未だに結論が出せずに混乱していた。 それによって海軍側の当初の思惑から全く外れた展開となり、 からの命令を受け、本来の任務を放り出してまで出動せざるを得な 守府は何の行動も起こせないでいた。 くなった横須賀特別陸戦隊とによって発生した陸海軍の緊張状態。 既に『当該艦』が入港して二日目になる。 理由は容易に考えられる。 それにもかかわらず鎮 突

そこへまた扉が開き、水兵が一人、入室する。

ح ! 討中、 軍令部より、 追って知らせるものとす。 再度返答あり。 (『当該艦』に対する処遇は目下検 軽挙妄動することなかれ〕 とのこ

や聞きあきたその電文に彼らの苛立ちは最高潮に達する。 それが、 つい先ほど問い合わせた軍令部からの返事であ ij もは

そしてつい に耐えきれなくなっ たのか、 人の佐官が声を張り上

げた。

に捉えているというのに、何の行動も起こさないとは!」 何をぐずぐずしているのだ軍令部は かの艦は帝都をも射程内

続ければ気が済むのだ……ッ!」 ても返事はけして手を出すなの一点張りのみ。 軍令部も政府も状況は把握しているはずなのに、 一体いつまで検討を 何度問い合わ せ

艦隊司令部は状況を把握すべく、 通信室は文字通りてんてこ舞いの有り様となっていた。 にかけての通路は頻繁に伝令が行き交い、次から次へとくる電文に かけているためだ。その為『長門』の通信室から長官公室や作戦室 然なまでに動きのない上層部に対し業を煮やした連合艦隊司令長官 彼らは連合艦隊司令部の参謀だ。 山本五十六大将が早期に『越後』側と接触するよう関係各所に働き 軍令部、そして海軍省や政府に対する罵倒雑言が室内に 各方面と連絡を行っていた。 戦艦『長門』に座乗している連合 噴出する。

まあ、待て。少し落ち着きたまえ諸君」

合艦隊の参謀長だ。 まっていないものの作戦室に静寂が戻った。 部屋の隅で静かに状況を見守っていた将官の声で、 彼の名は伊藤整一、 未だ熱気は 連 ЦZ

れば、 しかし、伊藤参謀長。 このままでは海軍の威信に関わりますぞ」 所属不明の軍艦、 しかも戦艦を放置 L

うむ、 参謀たちの危惧を、 確かにその通りだ..... 確信を持った声で伊藤は否定した。 しかし、この状況も長くは続

何故です」

だろう」 ちらが何の動きも無いようでは流石に何らかの接触を図ろうとする 行動を起こすことは間違い ただ座して事態を諦観しているような方たちではな 山本長官も、 臨時とはいえ横鎮の指揮を執っている鶴鷺大将も、 ないし、『当該艦』 の方も一日の間、 11 からな。 近く

た もの 参謀たちの多くはそう上手くい Ő 果たして伊藤の読みは正しく的中することになるのだっ くものか、 と疑問の表情を浮かべ

土官室で昼食を済ませ、 部屋に戻ってきた楓は非常に機嫌が良か

ったが。 見て、触り、 ことが出来たからだ..... 流石に機体に抱きついたりする度胸はなか んかは勿論、 なぜならば、 本職にでもならないければ滅多にできないことをやる 主翼の上に乗っかったり操縦席に座ったりと航空祭な 本物のF・22やF・2、 そし て A -1 0を間近

そして日立や小松など、 にかC.130輸送機が2機と至れり尽くせりの陣容だった。 甲板上にはF -2 2 , 日本を代表する重機が多数、さらに輸送用 F-2が各2機、 そし て A 1 0 が 1

るとしか思えない報告があったからだ。 を寄せている原因はそれではない、いくつかの報告書にふざけて ものもあったが、それはいい。仕方のないことだ。しかし楓がしわ は傍受した通信を解析した結果、戦艦『陸奥』、『伊勢』、『 た楓だったが、しかし段々と眉間にしわが寄っていく。 報告の中に 重巡『利根』を始めとする艦艇が東京湾口を封鎖しているという 上機嫌のまま椅子に座り、午前中の艦内各所からの報告を見て 日向。 11

るが、 に後者は白昼夢でも見たんじゃないのかと言いたい。 ているような気配を感じるが、誰もいない゛や゛鏡に少女の姿が映 例えば" 振り返ってもそこには誰もいない"等、正直言って.....とく 通路を歩いていると、後ろに誰かいるような、 尾行され

ではない。 から思いつつ、 なものは夏によくやるTVの心霊特集だけで十分だ。 こんな与太話をいったいだれが信じるのかと、 よくよく考えれば、 顔が青ざめているの疲れがたまっているからだろう。 部屋を出る。 この艦に乗ってい 断じて一人でいるのが怖くなったわけ る人って死んだ人ば 呆れてしまう。 そう心の底

り、なのか?)

一人が、この艦にいるはずのない階級章を付けていることに気がつ力が散漫していた楓は、前から歩いてきた見慣れない女性達の中の かないまますれ違ったのだった。 不意に浮かんできた怖ろしい想像を振り払うためか周囲 への注意

るべく、実験を試みていた。 つあった。そんな中、楓は自分が本当に艦魂なのかどうかを確かめ すでに陽は水平線の向こうに消え、 『越後』 の周囲も闇に沈み

(.....誰も、気付かないな)

真の中にも鏡の中にも自分自身の姿は見えたままだから、確認のし で消えてしまえるようなものなのかどうか、しかも確認するにも写 となると、それは一人だけでは難しい。姿を消す、と意識するだけ 中の艦魂のイメージだ。しかし、楓自身が艦魂かどうかを確かめる ようがないのだ。 艦魂というのは、誰でも見えるわけではない.....というのが楓

ないという事なのか? 立ち止まってみたりするなどしたが、 なら必ず敬礼してくる下士官や兵達の前で姿を消すと意識しながら く通り過ぎて行くだけ。 その為、 本当に見えていないのかどうかを確認するために、 Ļ いうことは彼らに自分の姿は見えてい 彼らは何の反応も示すことな

られた。 最中にあることに気付く。 腕を組み、首を傾げながら考え込む楓の肩に、 思わず反射的に振り返ってしまった楓だったが、 後ろから手が掛け 振り返る

(俺って今、周りに見えてないんだよな.....?)

なら、この手は一体.....。

そう思いながら楓が振り返ったその先には

やっとだ.....やっと見つけたぞ越後ッ.....!

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 などー 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 ています。 の縦書き小説 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 の タイ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n6645f/

戦艦越後物語・ 改

2011年11月5日02時15分発行